



2024年度 事業報告

Report

【 2024. 4. 1 — 2025. 3. 31 】



法人忘年会 2024

「基本理念」

ご利用者の「健やかな生活」の実現のため、心をこめた福祉サービスの提供を
全力で実行します。

2024年度 経営報告

Purpose 人々の豊かな生活、地域社会、そして日本を支える「福祉」
私達は「誇り」を持って、日本の福祉を「創造」し、「挑戦」します

1. 総括

《はじめに》

2024年度は、賃金上昇、物価高騰、人材の流動化が加速し、福祉業界に大きな影響を与えました。社会は今、かつてないスピードで変化を続け、予測困難な情勢となっています。そのような中、法・制度による強い規制のもと、公定価格での経営を余儀なくされる当法人の経営基盤は大きく揺らいでいます。

しかし、こうした困難の中にも、私たちは「次の時代へのヒント」があると信じています。「変化を恐れず、挑戦を楽しむ。」、そんな前向きな姿勢で、職員とともに考え、進むことが、未来を切り拓く鍵になると考えています。

さて、本年度の経営方針は、下記の3つを中核テーマに掲げました。

1. ご利用者の「その人らしい暮らし」への支援
2. 安定的な人材の確保と定着
3. 持続可能な経営基盤の構築

ご利用者がより豊かで活発な生活を送れるよう、各施設・事業所では、コロナ禍とは運営方針を大きく転換し、ご家族との時間や外出など、日常の楽しみが自然にある生活の支援に取り組んでいます。また、通所・訪問・相談支援等の各事業所では、地域に暮らす高齢者や障がいをお持ちの方々のその人らしい生活を支援しています。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が再拡大する中でも、現場の職員一人ひとりの献身的な努力により、ご利用者の命と生活を守る支援を実現できたことに、深い感謝と誇りを感じています。

人材確保の施策としては、特定技能制度による外国籍職員の採用やSNS（social networking service）を活用した採用活動が功を奏し、順調に推移することができました。しかしながら、職員の定着には依然として課題が残り、待遇改善と職場環境の改善、そして育成システムの再検討に取り組んでいく必要があります。

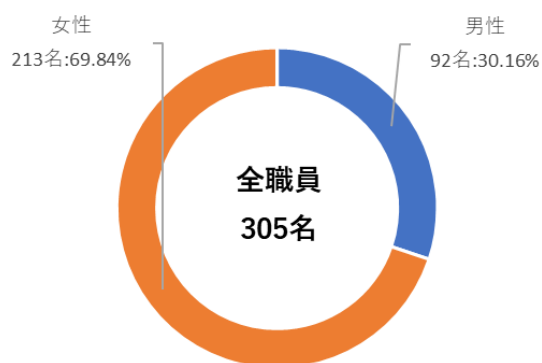
経営面では、各種感染症の影響に加え、賃金・物価の高騰、人材確保のための先行投資等が重なり、支出の増加が続いています。また、報酬改定や医療機関の経営不振（入院者増加、入院長期化）、介護事業所の乱立といった外部環境の変化への対応が遅れ、各施設・事業所の経営実績は伸び悩む結果となりました。社会福祉法人であっても、一企業としての視点が必要とされる時代です。2025年度は、経営実績と職員定着という2つの大きな課題に正面から向き合い、経営改善に取り組んでいきます。

私たちの社会福祉事業は、ご利用者お一人おひとりの暮らしを支え、地域社会の安心を支える大切な使命を担っています。たとえ、災害や新たな感染症の中にあっても、私たちは「支援を止めない」覚悟を持ち続けなければなりません。ご利用者も、職員も、その人らしく、豊かな日々を送れるように、着実に持続可能な法人経営を進めていきます。今後とも、皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

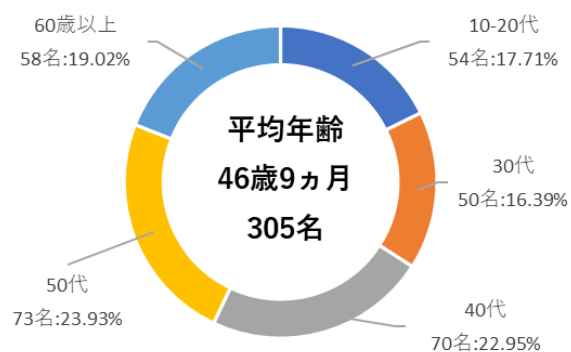
感謝 法人役員一同

2. 法人の基本データ（職員について）

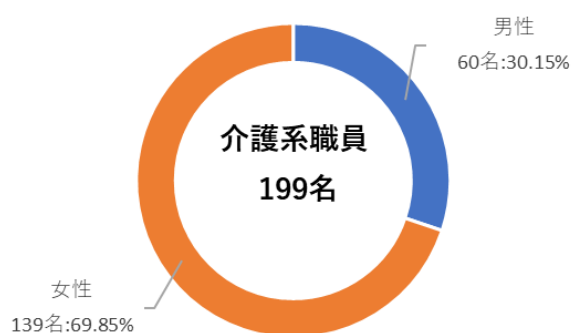
職員 男女比



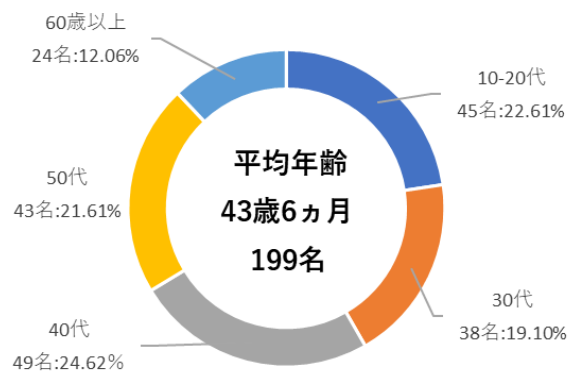
職員 年齢構成比



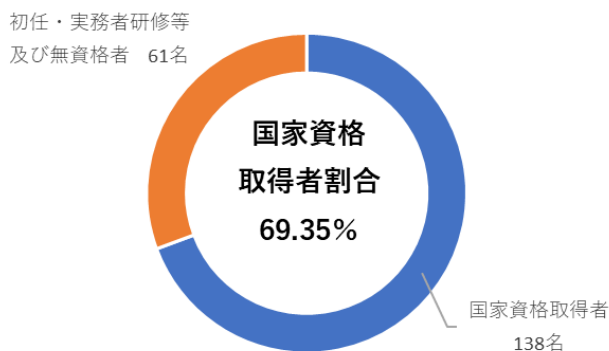
介護系職員 男女比



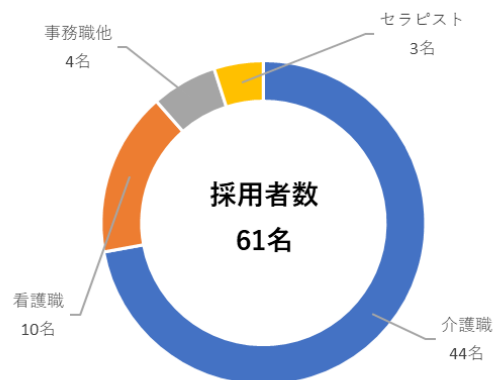
介護系職員 年齢構成比



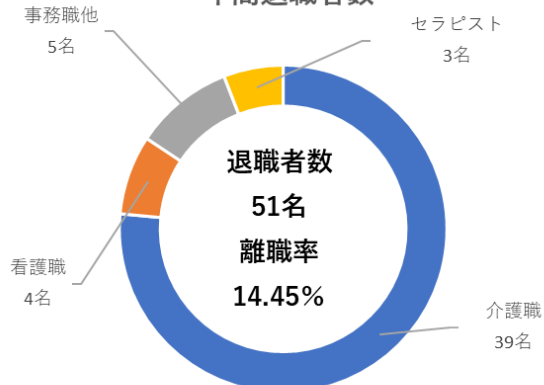
介護系職員 国家資格取得者数



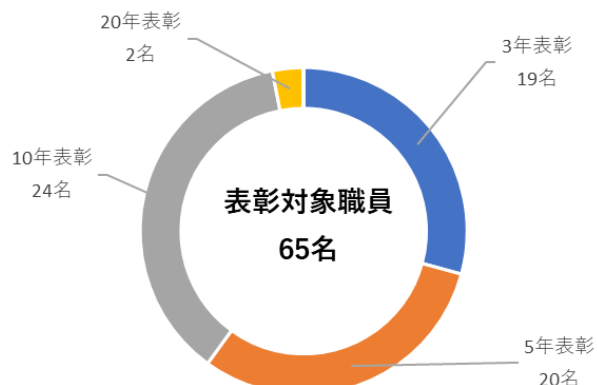
年間採用者数



年間退職者数



永年勤続表彰者



【平均勤続年数】 8年7ヵ月（介護系職員:8年3ヵ月）

【障がい者の雇用率】 3.10%（7名雇用）（法定雇用率2.50%）

3. 2024年度 経営方針（中期経営方針 2024-2025 年度）に対する成果と課題

（1）誰もが、その人らしい生活を継続するための福祉サービスの提供と地域づくり

～「利用者視点」・「地域貢献視点」～

私たちは、「その人らしい暮らし」を大切にするケア、在宅復帰を可能とする科学的根拠に基づくケア、そしてターミナル期に寄り添うケアの実践に取り組んでいます。特別養護老人ホーム和幸園と障がい者支援施設グリーンハイムの運営を通じて、個別性を尊重した支援を行ってきました。また、高齢者・障がいのある方・子どもなど、すべての人がその人らしい生活を継続できるよう、多様性を重視した在宅福祉事業（通所・短期入所・訪問介護）や相談支援事業（居宅介護支援・相談支援・介護予防）を展開しています。

また、地域福祉の拠点となる社会福祉法人として、地域貢献活動の実施、福祉現場からの研究発表や研修会の実施、さらに地域住民や地域の各種団体、各種産業との協働を通じ、誰もが暮らしやすい地域づくりに取り組んでいます。

- ◆ 特別養護老人ホーム和幸園では、「自立支援介護（日中おむつゼロ）」を実践するとともに、ケアの効果測定と実践事例の研究発表を行いました。
- ◆ 札幌市障がい者相談支援事業の受託や緊急ショートステイの受け入れ、札幌市障がい福祉計画の推進に係る各種協議会の役員活動を行うなど、地域福祉の拠点としての役割を担いました。
- ◆ 地域貢献事業として、地域の高齢者、障がいをお持ちの方の外出支援を行う「いしやま朝市送迎バス」の運行、認知症の高齢者の介護をしているご家族（地域の方）を対象とした「認知症状改善塾」を継続しました。また、介護・福祉について相談できる場所づくりとして「介護なんでも相談会」を札幌駅前地下歩道空間「チカホ」で開催しました。さらに、災害時の地域福祉の拠点として、地域社会に向けた情報発信、情報交換を行いました。

【課題】

- ◆ より多くの方に選んでいただけるサービス、ケアの実践とブランディング（付加価値）について、SNSを活用した情報発信に取り組みます。
- ◆ 当法人が、高齢者及び障がいをお持ちの方にとっての地域の福祉拠点となることを目指し、地域ニーズ・課題解決に向けた地域活動に取り組みます。
- ◆ 事故、虐待などのリスクマネジメントを徹底するとともに、リスク発生時には迅速且つ適切な対応、関係者での情報共有、外部への必要な情報公開を行います。

（2）自ら学び、成長、挑戦する意欲を引き出すチームマネジメント

～「人材視点」～

社会全体の人材の流動化が加速する中で、介護・福祉業界からの人材流失は喫緊の課題です。その対策として、当法人では特定技能制度による外国籍職員の採用に着手し、現在17名の職員が活躍しています。また、多様な働き方への対応や待遇改善、SNSを活用した採用システムの導入により、採用活動は一定の成果を出すことができました。一方で、職員の定着には課題が残り、さらなる待遇向上、職場環境の改善、短期離職（1年以内）防止に焦点を当てた施策の再検討が必要となっています。

- ◆ Eラーニングでの研修システムを導入したことにより、職場内研修が充実するとともに、職員一人ひとりの自己研鑽のツールとして活用しています（多言語対応）。

- ◆ 特定技能制度による職員採用を通じて、優秀な人材を多数採用することができました。また、外国籍職員の育成を行うことで、育成担当職員の成長と育成方法の再検討を行う機会となっています。
- ◆ キャリアアップの機会の提供として、法人内実務者研修教室の開校及び給付型奨学金制度の導入、介護福祉士国家資格勉強会の開催など、介護福祉士国家資格取得支援の拡充に取り組みました。結果、法人全体で7名の国家資格合格者を輩出しました。
- ◆ 処遇改善加算等を活用し、介護・生活支援員などのさらなる賃金改善を実施しました。また、処遇改善加算対象外の職員の待遇改善を行う他、社会情勢に合わせた公平性の高い各種規程の改正を実施しました。
- ◆ 特別養護老人ホーム和幸園では、補助金を活用した機械浴槽の導入により、ご利用者の満足度向上とともに業務負担軽減に取り組みました。障がい者支援施設グリーンハイムでは、Wi-Fi インカムシステムの導入により、職員間コミュニケーションの促進と業務負担軽減に効果がみられています。その他、見守りセンサー付ベッドや自動体位交換マットレス、移乗機器等を各施設で導入し、ご利用者の安全確保と業務負担軽減に取り組んでいます。
- ◆ 衛生委員会が実施したアンケート結果を参考に、職員休憩室の環境整備（Wi-Fi 環境整備、エアコン機器等の設置）や低価格自動販売機（飲料品）の設置、食料品自動販売システムの導入、そして、職員の健康増進を目的とした厨房業務委託業者による昼食弁当の低価格販売を行っています。

【課題】

- ◆ 法人の方針や事業内容を理解した職員の採用を促進するため、SNS や法人ホームページ、Indeed などを活用した採用を進めるとともに、採用チャネル・ツールの強化に取り組みます。
- ◆ 専門職研修、キャリアアップ研修を実施するとともに、役職者向けのコミュニケーション、労務マネジメント等の研修を行い、職員の定着率の向上に取り組みます。
- ◆ ICT システムと介護ロボット、介護機器などの導入により業務負担の軽減を図るとともに、職場環境の改善のための設備投資を行います。

（３）持続可能な経営基盤の確立

～「財務視点」・「ガバナンス視点」～

安定した経営基盤の確立のため、コンプライアンスと透明性の高い経営を基礎として、経営実績、財務状況についての明確な目標を定め、各施設・事業所の経営改善に取り組みました。しかし、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の発生、報酬改定や医療機関の経営不振（入院者増加、入院長期化）、介護事業所の乱立といった外部環境の変化への対応が遅れ、各施設・事業所の経営実績は伸び悩む結果となりました。事業活動収入（売上高）は、昨年度比で13,759千円を超える増収となりましたが、各施設では感染症の影響を含めた入院者の増加等により、予算収入を下回る結果となりました。一方、事業活動支出については、賃金・物価の高騰、人材確保のための先行投資、施設設備の修繕・更新等が重なり、予算を超える支出となりました。

総括としては、施設整備等に係る設備資金借入金元金償還支出として150,000千円の繰り上げ償還を行い、当期資金収支差額 ▲154,365千円、当期活動増減差額 ▲33,203千円（うち減価償却費121,359千円）と課題を残す決算となりました。今後は、各施設稼働率の向上、通所・地域事業の経営推進と長期的な視点での事業の整理、再構築に取り組んでいく必要があると考えています。

- ◆ 各施設・事業所の利用稼働率が低調となり、予算収入が未達成となりました。また、感染症対策や物価高騰などへの各種補助事業が縮小され、関連経費の増額を吸収することができず、経営悪化を招く結果となりました。
- ◆ 和幸園施設整備等に係る設備資金借入金について、10年毎の固定金利見直しによる金利上昇の対策として、150,000千円の繰上げ償還を行いました。
- ◆ 社会福祉法等の関係法令に基づき、理事会・評議員会を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、各種規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項を適正に決議しました。
- ◆ 情報公開（定款、各種規程等、事業計画、予算、事業報告、決算等、介護職員処遇改善計画等）、アカウントビリティ（説明責任）の促進のため、内部では法人内ネットワークシステムを活用し、職員との情報共有を図りました。また、外部への情報公開については、より広く効果的な情報発信を目指し、SNSの活用の幅を拡大しました。
- ◆ 業務効率化、業務負担軽減のためのICT機器の導入、介護ロボット・介護機器の導入や職場環境の改善のためのエアコン設置などの投資を行いました。

【課題】

- ◆ 各施設の経営リスクとなっている入院者対策について、協力医療機関との協力体制の再検討とベッドコントロールの精度をより高めていくことで経営の安定化に取り組みます。
- ◆ 新たな報酬体系の中で、収益率の向上を目指した各施設・事業所の経営に取り組みます。
- ◆ より多くの方に選んでいただけるサービス、ケアの実践とブランディング（付加価値）について、SNSを活用した情報発信に取り組みます。
- ◆ 通所・地域事業は、適正な人員配置のもとで、持続可能な経営スタイルの検討を行います。
- ◆ 職員の適正配置、業務の整理、効率化、分散と共有により、時間外労働の減少に取り組みます。
- ◆ 各施設の修繕や改修、業務効率化や業務負担軽減のための設備投資（ICTの導入、介護ロボット・介護機器の導入、ご利用者・職員ともに過ごしやすい環境整備など）とバックオフィス業務へのAIの導入及び効果的なアウトソーシング化に取り組みます。

法 人 事 務 局

1. 事業報告総括

(1) 法人事務局の運営実績と取り組みについて

法人事務局では、理事会・評議員会において、予算、事業計画、決算、事業報告、規程の改正、並びに法人及び各施設・事業所の経営に関する重要事項の決議を行い、コンプライアンスを基本とした適正な法人運営を進めるための事務局業務の遂行に努めました。また、法人の健全な経営と透明性の高い運営を目指し、定期的な監事監査を実施し、顧問社会保険労務士からの助言や指導を受けることで、法・制度に対応した適正な労務・会計手続き、ご利用者の預り金管理業務を円滑に進めることができました。さらに、防災関係や施設設備、車輛の維持管理業務を実施し、安全で快適な環境の確保に努めました。

経営面では、国や地方公共団体が実施する各種補助金を積極的に活用しました。ICTシステムの導入や介護ロボット・介護機器の導入、職員のキャリアアップを支援する研修、そして社会福祉法人減免制度を活用した利用者負担額軽減等の各種補助事業を活用しました。加えて、医療・福祉分野に対する物価高騰等に対応するための補助事業を活用し、法人全体で合計21,392千円を超える補助金の交付を受けることができました。これらの補助事業は、法人の健全な経営を支え、今後の発展に貢献する重要な財源となっています。

2. 法人運営状況

(1) 役員体制

役 職	氏 名	職 業	任 期
理事長	太 田 三 夫	学識経験者：太田・遠藤法律事務所 所長弁護士	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
常務理事	平 松 朋 紀	職員：総合施設長・法人事務局長	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
理 事	石 川 由 男	学識経験者：春野会計事務所 代表税理士	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	大 沼 百合子	学識経験者：当法人元常務理事	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	檜 森 道 子	学識経験者：当法人元地域事業部部長	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	星 野 八重子	職員：和幸園施設長	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
監 事	伊 藤 敏 幸	学識経験者：他社会福祉法人施設長経験者	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	平 田 清 悦	財務学識経験者：平田清悦税理士事務所 所長税理士	2023. 6. 22 ～ 2025. 6

役 職	氏 名	職 業	任 期
評議員	浅 香 博 文	学識経験者：社団法人会長（福祉関係）	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	岩 本 龍 明	地域の代表：会社経営者	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	大 磯 英太郎	地域の代表：会社経営者・石山商店街振興組合理事	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	塩 田 恒 雄	地域の代表：地区社会福祉協議会会長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	瀧 川 尚 規	学識経験者：他社会福祉法人施設長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	千 葉 徹	学識経験者：他社会福祉法人理事長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	福 士 昭 夫	地域の代表：石山地区町内会連合会会長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	藤 沢 美穂子	地域の代表：札幌市赤十字奉仕団石山分団長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6

(2) 理事会開催状況

第1回 2024年5月25日(土) 午後4時～午後5時15分

出席 太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子(理事6名)
平田清悦、伊藤敏幸(監事2名)

協議事項 2023年度 事業報告(案)について
2023年度 決算報告(案)について
監事監査(2023年度全般)結果について
修繕費積立資産の取り崩しについて
施設整備借入金の繰上げ償還について
定時評議員会の開催について

第2回 2024年10月5日(土) 午後2時～午後3時

出席 太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子(理事6名)
平田清悦、伊藤敏幸(監事2名)

協議事項 施設整備借入金の繰上げ償還について
2024年度 第1次収支補正予算(案)について

第3回 2024年12月21日(土) 午後2時～午後3時

出席 太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子(理事6名)
平田清悦、伊藤敏幸(監事2名)

協議事項 厨房業務委託契約の更新について
評議員選任・解任委員の選任について
各種規程の改正について

第4回 2025年3月22日(土) 午後2時～午後3時30分

出席 太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子(理事6名)
伊藤敏幸(監事1名)

協議事項 2024年度 第2次収支補正予算(案)について
2025年度 事業計画(案)について
2025年度 収支予算(案)について
育児・介護休業規則の改正について
次期評議員候補者の推薦について

(3) 評議員会開催状況

第1回 2024年6月19日(水) 午後3時～午後4時

出席 岩本龍明、大磯英太郎、塩田恒雄、瀧川尚規、千葉徹、福土昭夫、藤沢美穂子
(評議員7名)

平田清悦、伊藤敏幸(監事2名)

協議事項 2023年度 事業報告(案)について
2023年度 決算報告(案)について
監事監査(2023年度全般)結果について

(4) 監事監査実施状況

第1回 2024年 5月21日(決算) 第2回 2024年 9月19日(定期)

第3回 2024年12月13日(定期) 第4回 2025年 3月17日(定期)

(5) 各種指導監査

札幌中央労働基準監督署・北海道労働局（定期：労務全般）	指導事項なし
札幌市実地指導（定期：法人及び各施設、和幸園デイ、居宅介護支援事業所）	文書指導なし
札幌市実地指導（ハピりす保育園）	指導事項なし
企業主導型保育事業指導監査：(独) 児童育成協会	軽微な指導あり

(6) 法人全体研修

※他法人職員公開研修

	研修名	開催状況
1	リーダーシップを発揮するための業務マネジメント① 講師 倉 雅彦 氏（社会保険労務士事務所テラス）	2024年 7月30日 16:30～18:00 参加者 51名
2	リーダーシップを発揮するための業務マネジメント② 講師 倉 雅彦 氏（社会保険労務士事務所テラス）	2024年 8月20日 16:30～18:00 参加者 46名
3	虐待の芽となる不適切なケアについて検証する 講師 池田ひろみ 氏（合同会社うえるかむ）	2024年 8月26日 18:10～19:30 参加者 53名
4	安全運転講習会 講師 佐々木 厚史 氏（(有) オフィスブレイン）	2024年12月 5日 18:10～19:30 参加者 50名
5	メンタルヘルスケアについて 講師 角川 郁子 氏（笑いヨガティーチャー）	2024年10月24日 18:10～19:30 参加者 44名
6	人間関係構築のためのコミュニケーションについて 講師 濱田 健太郎 氏（五稜会病院）	2024年12月19日 18:10～19:30 参加者 50名
7	介護福祉士国家試験直前対策講座 講師 宮下 史恵 氏（旭川大学）	2025年 1月12日 14:00～18:00 参加者 7名（全員合格）
8	救急救命について 講師 公益財団法人札幌市防災協会	2025年 2月20日 18:10～19:30 参加者 62名
9	介護福祉士受験対策講座 講師 法人職員	2024年 8月～2025年1月 参加者 7名（全員合格）

(7) 防災訓練実施状況

実施日	実施内容	
2024年 6月14日	【火災避難訓練】 初期消火・通報・ご利用者の避難誘導訓練	グリーンハイムより出火想定訓練(和幸園合同) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 グリーンハイム本館3階居室 ②他階及びデイサービスでは日中想定訓練 (午前11時00分)
2024年 6月14日	【土砂災害避難訓練】 ご利用者の避難訓練及び建物・外周の状態確認	集中豪雨発生による危険個所の探索及びBCP発動の想定訓練(和幸園) ①集中豪雨発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
2024年 9月11日	【火災対応訓練】 初期消火訓練	火災発生想定での消火器使用訓練 (グリーンハイム玄関前)
2024年10月18日	【火災避難訓練】 初期消火・通報・ご利用者の避難誘導訓練	和幸園より出火想定訓練(グリーンハイム合同) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 和幸園(4階)4条1丁目居室 ②他階及びデイサービスでは日中想定訓練 (午前11時00分)
2024年10月18日	【土砂災害避難訓練】 ご利用者の避難訓練及び建物・敷地内の危険箇所の有無確認	集中豪雨発生による危険箇所の探索及びBCP発動の想定訓練(グリーンハイム) ①集中豪雨発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
2024年11月 1日	【他施設との共同災害対応訓練】 地震災害時の対応訓練	震度7の地震発生によるブラックアウト、インフラ不全時の他施設職員の派遣受け入れ訓練
2025年 3月 4日	【BCP策定委員会及び机上訓練】 対策本部、拠点対策本部機能強化訓練	各施設・事業所のBCP(感染症含む)の策定と机上訓練の実施等(意見交換含め)
2025年 3月18日	【緊急連絡・参集訓練】 緊急連絡網による緊急連絡訓練	地震発生により、ブラックアウトとなったことを想定した緊急連絡訓練 (午後6時30分から連絡開始)
2025年 3月21日	【地震災害時対応訓練】 地震災害時の対応訓練 (発電機稼働訓練)	地震発生による危険個所の探索及び発電機稼働訓練等(ブラックアウト想定) ①地震発生時間及び場所 日中想定 午後1時45分 札幌市内

(8) ご利用者預り金管理

区 分	預り人数	預り金残高(2025.3.31)
グリーンハイム	66名	138,986,991円
和幸園	3名	1,240,524円

(9) 地域貢献活動

- ・介護なんでも相談会（札幌駅前地下歩道空間「チカホ」での介護・福祉相談会を開催）
- ・認知症状改善塾
- ・いしやま朝市送迎バス
- ・石山地区清掃活動(春・秋 年2回)
- ・学生ボランティアの受け入れ

(10) 広報活動（広報委員会）

- ・広報誌「かけはし」の作成（年2回発行）
2024年7月発行（58号）、2025年2月発行（59号）
- ・ホームページの運営
- ・Instagram、LINE、YouTube の運営

(11) 業務委託状況

業務内容	業務委託先
施設厨房業務	(株) エムズフード
夜間施設警備業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
送迎車輛運転業務（真駒内駅送迎）	北海道東急ビルマネジメント (株)
施設内清掃業務	(株) シムス
昇降機定期点検業務	SEC エレベーター (株)
専用水道水質検査業務	(財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
自動ドア保守点検業務	フルテック (株)
非常火災設備保守点検業務	(株) ネットワークイン
施設敷地等除雪業務	(有) グッドウイング
デジタル交換機保守（電話機器）	新日本通信工業(株)
労務・総務業務顧問	社会保険労務士事業所テラス
給与計算業務	北海道サービス (株)
職員検診	医療法人社団明日佳 札幌検診センター
ストレスチェック	医療法人社団五稜会 札幌 CBT&EAP センター

(12) 法人建物・車輛の維持管理

① 建物

実施内容		
4月	貯水槽清掃	(株) 小川技研
6月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 汚水槽清掃点検	正栄機工 (株) (株) 小川技研
8月	エコキュート点検整備	(株) 前川製作所
9月	消防用設備保守点検及び屋上非常用発電機	(株) ネットワークイン
10月	厨房繰りストラップ清掃	(株) 小川技研
11月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	正栄機工 (株)
12月	エコキュート点検整備	(株) 前川製作所
1月	汚水槽清掃点検	(株) 小川技研
3月	2号ボイラー点検整備	(株) NTEC サービス
毎月	専用水道水質検査	(財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
年6回程度	電気設備点検及び屋上非常用発電機	北海道電気保安協会 (財)
年4回程度	暖房用非常用発電機 (非常用発電機試運転)	北海道電気保安協会 (財)、法人担当職員

② 車輛

車輛台数 32台 (内リース車両 27台)

2025年3月31日現在

所 属	台 数
グリーンハイム・和幸園職員送迎バス	1台
障がい者支援施設グリーンハイム	4台
特別養護老人ホーム和幸園	3台
和幸園デイサービスセンター	5台
生活介護事業所グリーンハイム	3台
和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森	3台
和幸園指定居宅介護支援事業所 (介護予防センター石山・芸術の森)	5台
グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所	3台
和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森	2台
相談支援事業所グリーンハイム	3台
計	32台

障がい者支援施設グリーンハイム ～ since 1973 ～

1. 事業報告総括

ご利用者の心身の障がいに対する理解を深め、専門的なアセスメントを行いながら、個別支援計画に基づいたケアを実施するとともに、「地域生活支援拠点」としての役割を掲げ、ご利用者及び地域の皆様が安心して生活できる障がい福祉の拠点となることを目指した施設運営に取り組みました。

2024年度においては、施設入居の稼働率が大きく低下し、実績目標数値から3.5名減少の93.49%（93.49名）となりました。特に、入院者の増加と年間で15名という過去に例のない退居者数となったことが影響しました。一方で、ショートステイに関しては、入院中のベッドを有効活用し、定期利用者への案内を積極的に行うとともに、虐待等の緊急保護ケースやご家族の入院等による緊急ケースといった急なニーズにも対応することで、利用実績を伸ばすことができました。その結果、施設入居とショートステイを合わせた総合的な稼働実績は95.34%となりました。実績目標の達成のため、入居待機者の確保に向けた取り組みの継続と情報発信の方法の再検討が必要であると考えています。

生活支援員の人材確保には課題があり、人員不足の場面もありました。そのような中、2024年4月より特定技能制度による外国籍職員が順次入職し、現在では6名が継続して勤務しています。非常に積極的な姿勢で業務に取り組んでおり、真摯にケアに向き合っています。夜勤も含めたケア業務全般を習得し、組織の一員として確かな存在感を示しています。

介護ロボット、ICT機器の導入の一環として、Wi-Fi インカムを導入しました。これにより、リアルタイムでの情報共有が可能となり、職員間の連携が迅速且つ円滑に行えるようになりました。今後も、ICT機器の活用を推進し、職員間の連携強化と業務効率化、業務負担の軽減に取り組みます。また、近年の暑さ対策として、施設内に大型エアコンを設置し、ご利用者が快適に過ごすことができ、また職員にとっても快適な環境を整えることができました。

2025年度も、引き続きご利用者が安心して支援を受けられる環境づくり、そして職員が安心して働くことのできる職場づくりを目指し、施設の経営・運営に取り組みます。また、地域社会への貢献と社会的価値の向上にも努め、地域に必要とされ、信頼される存在であり続けられるよう努力します。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・接遇向上委員会、虐待防止（身体拘束等適正化）委員会、リスクマネジメント委員会を開催し、多職種での意見交換、グループワークを行い、施設及び専門職としての考えを深めました。各委員会の活動は単独で完結するものではなく、相互に補完し合う関係にあり、その全てがより良い支援につながるよう目指しています。今後も、支援に対する意識を高めるとともに、専門的な知識と技術の向上に継続して努めていきます。

- ・服薬事故が続き、「緊急施設目標：誤薬事故0でご利用者に安心・安全な生活をお約束します」を掲げ取り組みました。服薬マニュアルの実施状況の緊急確認、薬局の協力をいただき、薬包の印字フォントの見直しを行いました。その成果もあり服薬事故は減少傾向にあります。
- ・ケア業務未経験者の採用増加と外国籍職員の採用への対応として、基本的なケアマニュアルの遵守や統一したケア方法の周知を徹底し、適切なケアの実践に向けて取り組んでいます。
- ・施設入居者の高齢化に対応するため、多職種が連携し、ご本人、ご家族に寄り添いながら支援を実践する看取りケアに取り組んでいます。

（２）財務視点

2024年度は、施設入居稼働率93.49%（93.49名）、ショートステイ稼働率141.51%（5.66名）という結果になりました。施設入居は、入院日数の増加や実質的な待機者不足等により、厳しい結果となりました。入居希望者の確保が急務となっているため、引き続き関係機関等への周知活動を継続していく必要があります。また、ショートステイでの新規ご利用者の受け入れを進め、施設入居の空きベッド活用に努めていきます。

（３）人材視点

職員の退職が相次ぎ、安定した職員体制の確保が課題となっています。しかし、外国籍護員6名が積極的な姿勢で業務に向き合い、明るく元気に活躍しています。通常のケア技術の習得に意欲的に取り組んでおり、将来的には介護福祉士資格の取得を目指しています。効果的な育成のため、ケアを学ぶためのツールとしてEラーニングを活用した多言語対応のケア技術習得のサポートを行っており、今後の成長と活躍に期待しています。今後は、採用した職員の育成・定着に重点を置き、安定した施設運営に努めます。

（４）地域貢献視点

入居施設、ショートステイサービス、札幌市入浴サービス事業の受託を継続するとともに、緊急性が高いケースの受け入れを行う等、専門職としての知識、技術を発揮し、地域における社会資源としての役割を果たしました。引き続き、地域住民が安心して利用できる社会資源としてサービス提供を継続するとともに、虐待による緊急一時保護等、緊急性の高いケースにも迅速に対応していきます。また、札幌市が運営する自立支援協議会や障がい福祉計画の推進に係る各種協議会への参画も継続していきます。

（５）ガバナンス視点

サービス提供に係る契約書類、実績記録、個別支援計画をはじめとする各種記録について、適切な整備・管理に努めました。また、日々の業務やご利用者の経過等に関する記録の充実にも取り組みました。引き続き、ご利用者・ご家族への記録の開示、行政や関係機関からの記録、書類の照会や運営指導等に適切に対応できる体制の強化に取り組めます。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況（定員／入居１００名、短期４名）

２０２５年３月３１日現在

職 名	職員数	常勤換算数	備 考
施設長	１名	0.5名	社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士 サービス管理責任者兼務
サービス管理責任者	２名	1.5名	社会福祉士２名／精神保健福祉士１名 管理者兼務１名
生活支援員（相談）	９名	65.3名	相談員 常勤２名：社会福祉士２名 相談員補助 非常勤６名
生活支援員（介護）	52名		常勤４２名、非常勤１０名：介護福祉士２７名／精神保健福祉士１名、社会福祉士１名
看護職員	15名		併設施設兼務１４名、夜勤専従１名 (常勤換算 7.1名 うち生活介護4.5名)
機能訓練指導員	２名		理学療法士 常勤２名 併設施設兼務１名 (常勤換算 1.5名)
医 師	２名	0.2名	定山溪病院 配置医（週１回往診）
管理栄養士	１名	1.0名	

(2) 職員研修実施状況

開催日	研修名	講 師	参加職種
随 時	プリセプター研修	生活係長	生活支援員（介護）
随 時	障がいの理解	施設長	生活支援員（介護）
随 時	排泄委員会 オンライン研修	リフレオムツサポーター	排泄委員
随 時	ケア技術研修（全５回）	リーダー職	新人生活支援員（介護）
随 時	摂食・嚥下について	生活係長	新人生活支援員（介護）
随 時	車椅子について	理学療法士	新人生活支援員（介護）
随 時	口腔ケアについて	たんぼぼ歯科 歯科衛生士	新人生活支援員（介護）
随 時	排泄について オンライン研修	リフレオムツサポーター	新人生活支援員（介護）
毎 月	緊急時対応訓練（夜間・室息等）	リスクマネジメント委員	各グループ生活支援員（介護）

(3) ご利用者状況

① 入退居状況

	2023. 4. 1 在籍者	2023. 4. 1 ～ 2024. 3. 31		2024. 3. 31 在籍者
		入居者	退居者	
男 性	53	10	10	53
女 性	48	4	5	47
計	101	14	15	100

② 退居理由

	男性	女性	計
ご逝去	4	5	9
他の施設・病院	5	0	5
家庭復帰（地域移行）	1	0	1
計	10	5	15

③ 月別利用稼働率（定員／入居 1 0 0 人、短期 4 人）

	入 居			ショートステイ		
	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
4 月	95.33%	95.33%	97.17%	95.83%	150.83%	121.67%
5 月	95.42%	95.42%	97.48%	105.65%	141.13%	113.71%
6 月	94.27%	97.03%	97.73%	116.13%	134.17%	118.33%
7 月	94.03%	96.42%	96.23%	150.81%	125.81%	114.52%
8 月	92.48%	96.42%	94.68%	156.45%	145.97%	115.32%
9 月	89.47%	93.30%	98.90%	186.67%	150.00%	124.17%
10 月	93.81%	90.97%	97.81%	164.52%	162.90%	120.97%
11 月	93.23%	93.53%	98.37%	146.67%	145.83%	107.50%
12 月	96.10%	95.84%	97.74%	140.32%	131.45%	79.84%
1 月	90.19%	95.65%	97.23%	118.55%	129.84%	125.00%
2 月	93.00%	95.38%	96.50%	147.32%	130.17%	125.00%
3 月	94.48%	96.45%	95.71%	165.32%	139.52%	131.45%
計	93.49%	95.15%	97.12%	141.51%	140.64%	116.45%

④ 年齢別状況

	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～	計
男 性	0	3	4	11	12	9	9	5	0	53
女 性	0	1	5	11	6	7	9	6	2	47
計	0	4	9	22	18	16	18	11	2	100

⑤ 利用期間状況

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	計
男 性	9	5	9	10	10	6	0	4	53
女 性	4	5	6	9	6	5	1	11	47
計	13	10	15	19	16	11	1	15	100

⑥ 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男 性	4	9	18	22	53
女 性	2	5	13	27	47
計	6	14	31	49	100

⑦ ショートステイ（短期）実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2024	2023
男 性	7	9	8	9	9	9	7	7	9	10	9	9	102	106
女 性	7	9	8	10	11	10	11	12	10	7	10	13	118	112
計	14	18	16	19	20	19	18	19	19	17	19	22	220	218
利用日数	115	131	144	187	194	224	204	176	174	147	165	205	2,066	2,053

実利用人数：29名(2022年度 22名)

⑧ 外出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2024	2023
外出延人数	14	23	28	19	23	26	19	22	15	5	8	30	232	152

⑨ 外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2024	2023
外泊延人数	3	3	2	2	4	3	1	3	5	5	2	2	35	26
外泊延日数	9	11	8	8	10	10	2	9	11	31	7	7	123	59

⑩ 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2024	2023
件 数	82	65	62	76	56	51	86	67	78	62	61	74	820	818
実延人数	49	42	44	49	36	42	51	47	44	45	40	49	538	513

⑪ 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2024	2023
入院者	7	6	10	9	13	16	9	11	9	15	12	9	126	124
延日数	131	147	113	134	222	261	190	203	141	254	165	146	2,107	1,824

⑫ 事故報告件数

	事故件数	
	2024 年度	2023 年度
転倒・転落	62	45
服 薬	55	61
異 食	0	0
介 護	43	33
誤 嚥	5	7
備品破損・紛失	1	8
私物破損・紛失	16	25
その他	52	65
計	234	244

⑭ 苦情受付件数

	件 数
食事に関すること	0
設備に関すること	0
行事・活動に関すること	0
職員に関すること	2
ご利用者に関すること	0
その他	0
計	2

(5) 年間行事報告

行事名	実施日	内 容
ご当地フェア	4月29日、5月20日	エムズフード主催 全国ご当地メニュー
家族懇談会	4月21日	制度改正内容の説明、懇談
ボーリング大会	5月29日、31日	ボーリング(補助付き)を楽しむ
移動動物園	6月7日	動物との触れ合いを楽しむ
ジンギスカン	6月10日、11日、18日	屋外でジンギスカンを炭火で調理し提供
洋品店訪問販売	6月14日	ご自身で洋服選びや購入の機会を提供
天ぷらの日	7月8日、9日、12日	行事食として天ぷら等の食事を提供
甘味処	8月15日、16日	飲料やゼリーやケーキ等を提供
敬老の集い	9月20日	65歳以上の方々を対象にお祝い ご利用者全員にお祝いの食事を提供
洋品店訪問販売	10月25日	ご自身で洋服選びや購入の機会を提供
寿司の日	11月6日、7日、12日	職人によるにぎり寿司の提供
クリスマス忘年会	12月19日、20日	会食と演芸やゲームを楽しむ
餅つき	1月31日(コロナ感染により順延)	餅つきで季節感や年中行事を体感する
新春ゲーム大会	1月1日	グループ毎に新春祝いのレクリエーション
節 分	2月3日	ご利用者とともに豆まき
鍋の日	2月4日、6日、7日 3月7日、10日、11日	寄せ鍋、すき焼き等の食事を提供
利用者懇談会	3月4日、10日、18日、19日、24日	グループ毎に開催
食品訪問販売	8月8日、9月24日、10月31日 12月6日、1月17日、2月6日 3月6日	多目的ホールにて食料品訪問販売 ご自身で食料品等の購入の機会を提供

特別養護老人ホーム和幸園 ～ since 1975 ～

1. 事業報告総括

ご利用者が、その人らしい生活を主体的に過ごせるように、ご利用者お一人おひとりを専門的に介護するための視点として「水分・常食・運動・排泄」の4つの基本ケアを中心とする自立支援介護に取り組みました。自立支援介護の実践により、介護度が軽度化するご利用者が増加傾向となる等の結果が出ています。

経営面では、常時5名以上の入院者が発生するとともに入居・退居が多い1年となり、施設入居及びショートステイの稼働実績は低下傾向となりました。ケアの質を追求し、入院者の発生を予防するとともに、入院者ベッドでの新規入居者の受け入れやショートステイでの活用を推進し、経営の安定化に取り組んでいきます。

また、職員採用においては、2023年10月から開始した特定技能制度による外国籍職員の採用を推進し、現在は11名が入職、介護人材不足の中で大きな力になっています。外国籍職員を支援する登録支援機関と連携し、長期的な定着を目指したサポートに取り組んでいきます。

最後に、介護職員等の業務負担軽減、業務効率化を目指したICT機器や介護ロボットの導入について、車いすでの入浴支援機器「アラエル」を導入したことで、職員の業務負担軽減とともに、ご利用者満足度も高めることができました。その他、転倒等の事故防止等のカメラ付き見守りセンサー「aams」も含め、今後も業務の負担軽減と効率化・利用者満足度の向上に取り組んでいきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 自立支援介護

- ・自立支援介護WEB研修の参加を継続し、自立支援介護に関する知識の習得と実践の評価をすることができました。
- ・フロア会議にて個別ケア会議を実施し、月毎の水分、下剤や浣腸、食事形態、歩行量等を評価し、PDCAサイクル（毎月）による支援を行いました。

② ターミナルケア

- ・ご家族との情報共有を図り、ご利用者との時間を多く過ごしていただけるように支援を行いました。
- ・電話やLINEを活用して近況報告（画像・動画を活用）を行いました。
- ・ご利用者やご家族の意向に沿った最期の時をお過ごしいただけるよう、多職種連携による支援を行い、年間を通じて14名のご利用者を施設内でお見送りしました。

③ 褥瘡の予防

褥瘡予防委員会を2ヶ月に1度開催し、褥瘡発生状況及び対応方法の情報共有と理学療法士による褥瘡予防のためのポジショニングや除圧についての勉強会を実施しました。皮膚観察時に発赤が継続している場合は褥瘡と初期の段階で判定、入居時からの褥瘡判定、医療機関退院時からの褥瘡判定の方を含めて年間を通じて27件の褥瘡の対応を行いました。協力医療機関での診断、治療、施設内でのケアにより、3ヶ月以内に改善した方が6名、その他の難治性の方も治療を継続し改善傾向となっています。ご利用者全員の褥瘡防止計画作成と褥瘡と判定した方に関しては、多職種への情報共有や理学療法士による個別のポジショニング指導、マットレスの選定、配置医師への報告、医療機関受診等で重症化予防、早期改善に努めています。

④ 介護事故

介護事故の総件数は284件と前年度と比較し減少しています。異食事故が16件と例年より増加傾向となったことから、フロア内の見守りや環境整備を行い、再発防止に取り組んでいます。また、服薬事故については、ヒューマンエラーであることと健康被害へのリスクが高いことから、服薬事故ゼロを目指し、再発防止に努めています。

⑤ 感染症予防

- ・感染対策のための換気、消毒方法の指導、居室の清潔保持のための点検を半年に1度実施しました。
- ・感染症予防委員会において、感染症発生時のガウンの着脱方法、物品の取り扱い方法、マニュアルの見直しを行い、職員への再教育を実施しました。
- ・ユニット内での食品管理（ご家族持ち込みを含め）を徹底し、食中毒防止に努めました。

⑥ 身体拘束廃止及び虐待防止

身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会を定期的に開催し、身体拘束及び虐待による入居者の生命危機や安心して日常を過ごせる環境づくりを推進するため、計画的な職員育成、各専門職としての倫理観を学ぶための研修を実施しました。

⑦ レクリエーション、クラブ活動の充実

理学療法士によるユニットレクリエーションやクラブ活動、フロアやユニット毎の行事・外出会を実施し、ご利用者が楽しみを持って生活できる環境づくりに努めました。

⑧ ご家族との連携

ケアプラン更新の都度、ご家族に対し、ご利用者の様子を報告するとともに、ご家族の意向の聞き取りを行い、ケアプランに反映しました。また、体調不良時や事故等が発生した際には、ご利用者の状態と今後の見通し、施設としての対応等について、迅速且つ丁寧な報告に努めました。

(2) 財務視点

稼働実績については、施設入居97.50%、ショートステイ90.00%の目標稼働率に対し、施設入居は93.64%（112.36名）、ショートステイは96.81%（18.39名）となりました。通年で新規入居者が47名、退居者が42名と例年よりも入居・退居が多い1年であったことと、常時5名以上の入院者が発生していたことへの対応が遅れたことが、施設入居の稼働実績を低下させる結果となりました。年度終盤からは、長期入院が見込まれる場合には、新規入居者の受け入れを行うとともに、これまでと同様にショートステイでの空床利用を行いました。医療機関や有料老人ホーム、高齢者住宅等の増加等の外部環境の変化により、施設経営が難しくなっている中で、柔軟且つ迅速な判断と行動ができる組織体制の強化に努めていきます。

一方、ショートステイは、緊急ショートステイや困難ケースの積極的な受け入れを行うとともに、運動やレクリエーションを多く取り入れる等、活動性の高いショートステイとしてのご利用者及びケアマネジャーからの評価を高めていることで、新規ご利用者の確保につながっています。

(3) 人材視点

新規職員の採用は、通年で17名、採用が難しい介護職員の採用が15名、そのうちの5名は特定技能制度による外国籍職員の採用となりました。一方で、退職者数は20名と前年度比で6名の増加、そのうち介護職員は16名と前年度比で7名増加しています。退職理由としては、育児や親の介護、持病の悪化等の理由が多数を占め、施設への不満や職員間でのトラブルが原因となる退職者は少ない結果となりました。今後も、職員の育成・定着のためのサポート体制を強化し、離職防止に努めていきます。

(4) 地域貢献視点

- ・自立支援介護の実践を基本とした「認知症状改善塾」を開催し、地域で介護をするご家族のサポートに取り組みました
- ・実習生の受け入れや学生ボランティアの活動の場を提供し、地域福祉の発展のための福祉教育に取り組みました。
- ・社会福祉法人減免制度により、年間9,000千円を超える低所得者への経済支援を継続しています。

(5) ガバナンス視点

施設の運営基準やサービスの自己評価等を定期的に行うとともに、各種加算の算定要件を定期的に確認し、運営基準違反や不適切なサービス提供、不正請求がないように努めています。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況（定員／入居120名、短期19名） 2025年3月31日現在

職 名	職員数	常勤換算数	備 考
施設長	1名	1.0名	社会福祉士／介護福祉士／介護支援専門員
生活相談員	5名	3.5名	常勤5名（介護支援専門員兼務2名） 社会福祉士5名／介護福祉士3名
介護支援専門員	3名	1.5名	生活相談員兼務3名
介護職員	88名	77.8名	常勤59名、非常勤29名（常勤換算77.8名） ：介護福祉士65名
看護職員	15名	5.3名	常勤1名、併設施設兼務14名（常勤換算5.3名）
医 師	2名	0.2	定山溪病院 配置医（週1回往診）
機能訓練指導員	2名	1.5名	理学療法士 常勤2名 併設施設兼務1名 （常勤換算1.5名）
管理栄養士	1名	1.0名	常勤1名

(2) 職員研修実施状況

	研修名	講 師	参加職種
6月～7月 (全4回)	ユニット研修 虐待防止・身体拘束廃止	施設長	介護係長、介護職員、看護職員、理学療法士
8月15日	排泄研修(パットの選び方、当て方)	リブドゥコーポレーション	施設長、介護係長、介護職員
8月23日	介護事故の再発防止策検討会	あいおい損保	施設長、相談員
9月19日	事業継続計画 BCP	施設長	介護職員、看護職員、理学療法士、相談員
9月25日	腹部マッサージ	看護職員	施設長、介護係長、介護職員
9月25日	感染委員会「どのように感染が広がるか」	ジョブキタアカデミー	施設長、介護係長、介護職員、看護職員
9月26日	老施協札幌市保健所 結核研修会	札幌市保健所	施設長、看護係長
10月23日	事故対策委員会 「介護現場の事故対応と裁判回避策」	外部	施設長、介護係長、介護職員、看護職員、相談員
10月24日	これからの介護 自立支援介護こそ救世主	国際医療福祉大学 竹内孝仁 氏	常務理事、施設長、介護職員、相談員
11月11日 ～15日	認知症実践リーダー研修	外部	介護係長
11月11日	自立支援介護セミナー「市民で治そう認知症」	外部	自立支援課長、介護職員
11月12日	褥瘡委員会「ポジショニングについて」	訓練係長	施設長、介護職員、看護職員、相談員
12月3日	職員が退職しなくなる介護事業所管理者 スキル	神内商店 神内秀之介 氏	施設長
1月29日	時間栄養学から見た腸内環境	札幌榎心会病院 栄養士	施設長、管理栄養士
2月5日	管理者・ユニットリーダーのための フォローアップ研修	外部	施設長
2月14日	事故対策委員会 「緊急時の対応の方法について」	介護係長	介護職員
3月8日	ポジショニングの意義(前編)	パラマウントベッド	理学療法士
3月11日	褥瘡防止委員会 「ポジショニングの意義」動画	山口県立大学 田中マキ子 氏	施設長、介護職員、看護職員、理学療法士
3月28日	低栄養と摂食嚥下障害への包括的な支援のあり方 ～明日から活かせる実践的な食支援～	医学博士 永野彩乃 氏	施設長、管理栄養士
2月～3月 (全6回)	明日から活かせるウンドケア(褥瘡ケア・スキンケアポジショニング・栄養ケア)	スミス・アンド・ネフュー	理学療法士
年12回	自立支援介護Web研修	外部講師	介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員
随 時	緊急時対応(救命救急)	看護職員	全ユニット介護職員
随 時	介護理念について、認知症について	施設長	新人介護職員
随 時	基本ケア・食事・排泄・移動・感染・オンコールについて	介護主任・リーダー	新人介護職員
随 時	感染症について	看護職員	新人介護職員
随 時	記録・ターミナルケアについて	看護・介護係長他	新人介護職員

(3) ご利用者状況

① 入退居状況

	新規入居者	退居者
男 性	20	10
女 性	27	32
計	47	42

② 退所理由

	2024 年度	うちターミナルケア	2023 年度
ご逝去	19	12	14
長期入院	22	3	18
家庭復帰	0	0	0
他施設へ入居	1	0	0
計	42	15	32

③ 月別平均利用稼働率（定員／入居 1 2 0 名、短期 1 9 名）

	入 居		ショートステイ	
	2024 年度	2023 年度	2024 年度	2023 年度
4 月	92.42%	95.50%	101.75%	106.14%
5 月	93.52%	94.22%	102.55%	112.05%
6 月	94.06%	95.50%	83.68%	98.25%
7 月	94.60%	95.65%	91.34%	111.38%
8 月	93.58%	94.41%	104.75%	107.3%
9 月	95.19%	95.36%	98.95%	100.7%
10 月	96.59%	95.11%	100.34%	106.45%
11 月	93.56%	96.89%	87.02%	110.53%
12 月	93.66%	96.02%	85.40%	102.89%
1 月	92.72%	95.32%	87.78%	98.13%
2 月	93.93%	94.34%	100.56%	85.48%
3 月	97.15%	93.90%	93.89%	97.45%
年度平均	93.64%	95.19%	96.81%	103.06%

④ 年齢別入居者状況

	65 歳未満	65 ～ 74	75 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	計
男 性	1	5	13	8	6	5	0	38
女 性	1	5	22	18	21	12	1	80
計	2	10	35	26	27	17	1	118

⑤ 新規入居者の状況

	人 数
自 宅	27
介護老人福祉施設	0
介護老人保健施設	8
介護療養施設	0
医療機関	9
他の福祉施設	3
計	47

⑥ 月別入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2023年度
入院者数	4	5	4	2	5	5	7	7	8	9	3	3	62	61
入院延日数	174	166	225	209	249	171	112	241	188	281	248	183	2,447	1,822

⑦ 新規入居者の入居時認知症自立度状況

認知症 自立度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
I	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
II	0	1	1	0	1	0	0	0	2	1	1	0	7
III	6	4	4	1	4	3	4	2	3	2	2	2	37
IV	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6	5	5	1	5	4	4	2	5	4	3	2	46
III以上	100%	80.0%	80.0%	100%	80.0%	75.0%	100%	100%	60.0%	75.0%	66.7%	100%	82.61%

⑧ 新規入居者の入居時要介護状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護3	5	2	4	1	3	2	1	0	4	2	1	2	27
介護4	1	3	0	0	1	2	1	1	1	2	1	1	14
介護5	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	1	0	6
計	6	5	5	1	5	4	4	2	5	4	3	3	47

⑨ 事故報告件数

	事故件数	
	2024 年度	2023 年度
転倒・転落	111	143
打撲・外傷	27	33
あ ざ	44	83
服 薬	46	41
異 食	16	8
誤 嚥	11	15
皮膚剥離	10	32
その他（ヒヤリハット含む）	19	25
計	284	380

⑩ 苦情受付件数

苦情内容	件 数
介護等に関すること	1
設備に関すること	0
職員に関すること	1
その他	0
計	2

(4) 年間行事報告

行事名	実施日	内 容
すき焼きの日	4月17日・3月21日	各ユニット実施 (13 ユニット)
ユニット外出会	5月～11月・3月 (食事会)	ユニット毎に実施 (13 ユニット) 感染症のため1ユニットが食事会に変更
園庭の花植え	5月2日	園庭の花植えをご利用者と共に行う
天ぷらの日	6月3日、4日、13日、21日	揚げたての天ぷらの提供
移動動物園	6月7日	施設に動物を迎えてふれあう
ジンギスカン	7月18日、19日、30日、31日	ジンギスカン
法廷見学、模擬裁判体験	8月2日	裁判所にて見学ツアーに参加
花火大会	8月8日	夜、花火の打ち上げ
2条祭り (2条フロア行事)	9月20日	2条3ユニット合同での屋台と仮装
敬老祭	9月11日、12日、13日	祝寿対象者などへ記念品の贈呈、食事会等
秋祭り (1条フロア行事)	10月6日	ショートステイユニットでの秋祭り
秋の味覚祭	10月31日	昼食に秋の味覚 (栗ご飯・鮭のちゃんちゃん焼き・じゃがバター・きのこ汁・柿) の提供
4条祭り (4条フロア行事)	11月13日	のど自慢大会とうなぎ弁当の提供
寿司の日	11月19日	お寿司を召し上がっていただく
運動会 (3条フロア行事)	11月22日	多目的ホールにてユニット対抗運動会実施
クリスマス会	12月25日	各ユニットで会食と催し物など披露
節 分	2月3日	各ユニットにて豆撒き
鍋の日	2月12日	各ユニットにて寄せ鍋
誕生会	4月～3月	ご利用者の誕生会を月単位で実施
クラブ活動	4月～3月	季節の創作・書道・麻雀実施
ユニット毎食事行事	4月～3月	各ユニットにて定期的な食事行事 (調理・出前)
買い物ツアー	5月～10月 (月1回)	月1回 買い物を楽しむ
季節の果物の日	8月～3月	月1回 季節の果物を提供
季節の料理 (1条フロア行事)	年1回 (2月・3月)	1条季節の料理作り (クレープ・ドリア)

1. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・新型コロナウイルスの感染症分類の変更により、受診先を探す困難な状況が減少しました。年間を通して相談や適切な対応が迅速となったことで、ご利用者が重症化する前に治療を受けられる体制が整いました。また、協力医療機関との連携体制の強化により、往診や経過報告等での治療が可能となり、医療機関受診等の移動負担が軽減できました。外出・外泊・面会の制限についても、社会情勢に応じた緩和を行ったことで、ご利用者にとって楽しみの機会が増え、生活にメリハリが生まれました。こうした開放的な環境により、ご利用者の不安が軽減され、運動量も増加したことで、心身の健康度が向上しています。その結果、急変による救急搬送や心肺停止等の救急要請も減少し、ご利用者だけでなく職員にとっても、より安心して介護ができる状況となっています。
- ・ターミナルケアの対象者は、多くの方が普段どおりの生活を続けながら、終末期まで施設で過ごすことができています。ご家族の「できる限り施設で見送りたい」という意向に沿った支援ができており、逝去後には感謝のお言葉をいただくことも多く、施設での看取りへの満足度の高さを実感しています。

(2) 財務視点

- ・ご利用者が使用する物品については、使用期間が長期化するものや、病院で管理算定されている物品を確認のうえ、個人購入への切り替えや病院からの払い出しを受けることで、施設の負担を軽減することができました。
- ・薬の配送時間を変更したことで、薬の処理が早い時間に可能となり、勤務時間内に業務を完了できるケースが増えました。

(3) 人材視点

- ・一部スタッフの勤務時間を見直し、業務内容に応じて人員が必要な日や時間帯に柔軟に配置することで、業務が円滑に行える体制を整えています。
- ・施設看護職員としての役割を理解し、的確に判断、対応できる職員の育成が進められています。これにより、施設として医療的役割をしっかりと果たせる体制が築けています。

(4) 地域貢献視点

- ・両施設において、緊急ショートステイの受け入れを積極的に行いました。土日も利用状況に応じて柔軟に対応しています。
- ・地域からの要請により、石山地区町内会夏祭りへの看護職員の派遣（救護班）を実施しています。

(5) ガバナンス視点

- ・各種カンファレンスに参加し、医療面からご利用者が健康的な生活を送れるよう情報提供を行っています。疾患や既往歴をもとに生活上のリスクを予測し、根拠に基づいた支援計画の立案に努めています。
- ・薬のセットや配薬ミスについて、定期的に集計・検証を行い、医療事故の予防に努めています。事故が発生した際には迅速に情報共有を行い、改善に向けた対策を検討し、実施しています。

2. 医療業務実績

(1) 和幸園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療処置数	273	230	218	167	317	118	148	205	215	148	293	221	2,553
胃ろう栄養	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
浣腸	57	63	48	72	56	59	82	69	64	68	76	101	815
ターミナルケア	33	31	34	31	34	31	29	30	28	27	27	30	365
ご逝去	2	1	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	9
救急搬送 日中	0	2	2	1	0	2	0	5	0	2	0	0	14
救急搬送 夜間	0	2	0	0	2	0	2	1	0	0	1	0	8
待機出動	4	3	6	4	4	5	2	3	4	1	2	2	40

(2) グリンハイム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療処置数	114	110	111	39	37	80	80	74	64	115	102	85	1,011
胃ろう栄養	6	6	6	7	6	6	5	6	6	5	8	8	75
ターミナルケア	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
救急搬送	1	2	2	0	0	2	1	1	1	5	0	0	15
夜間受診の付添	0	1	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	6

主な処置内容：カテーテル交換、褥瘡・創傷処置、皮膚変色や創部の確認、吸引等

栄養・食事部門

1. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

食事の提供については、ご利用者の意見等を反映するため、委託業者と定期的に意見交換を行い、おいしい食事の追求に努めました。また、ご利用者の意見を反映した食事行事を前年度よりも多く開催することができました。さらに、栄養ケアマネジメントを行い、ご利用者個々にあった栄養ケアの提供に努めました。

(2) 財務視点

各施設における栄養マネジメント等の各種加算について、算定要件を確認し、適切に算定を継続することができました。また、支出に関しては、物品購入、行事等、計画的に予算内での支出に努めました。

(3) 人材視点

研修や勉強会の開催がリモート形式になったことで、スケジュールに合わせて参加できるようになりました。今後は、外部研修にも積極的に参加し、最新の情報を取り入れることに努めていきます。また、施設管理栄養士と委託業者の管理栄養士、厨房職員が定期的に全体ミーティングを行い、情報共有や食事の質の向上、衛生管理について話し合いを重ねています。今後もこの取り組みを継続し、安心・安全でより良い食事の提供に努めていきます。

(4) 地域貢献視点

和幸園で実施している地域貢献活動「認知症状改善塾」に管理栄養士として参画しました。

(5) ガバナンス視点

各施設で感染症が発生した際には、感染拡大防止のため、感染対応マニュアルに沿った厨房業務へのシフトチェンジをする等、状況に合わせた適切な対応を実施しました。また、他職種との意見交換を通じて、適切な栄養ケアマネジメントを行うことができました。

2. 栄養・食事業務実績

(1) 平均食数(1日あたり/通年)

施設・事業所区分		食数
グリーンハイム	施設入居	93.48 食
	ショートステイ	5.66 食
生活介護事業所グリーンハイム		13.18 食
和幸園	施設入居	112.39 食
	ショートステイ	18.39 食
和幸園デイサービスセンター		30.02 食
計		273.12 食

(2) 食事形態

	グリーンハイム	和幸園	計
常食	61	56	117
やわらか食	23	29	52
ゼリー食	10	23	33
調整食	1	0	1
胃 婁	6	3	9

(3) 特別食

	グリーンハイム	和幸園	計
糖尿病	10	9	19
脂肪制限	4	1	5
心臓病	1	4	5
腎臓病	2	4	6
貧血	0	0	0
低残渣食	0	0	0
計	17	18	35

(4) 年間行事実績及びポイントメニュー

	行 事	ポイントメニュー
4 月	和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼) 和幸園鍋の日	赤飯 各地のご当地メニュー すき焼き
5 月	子供の日(5 日) 和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯、筑前煮、さくら漬け、水ようかん ちらし寿司 各地のご当地メニュー
6 月	和幸園デイサービス誕生会 和幸園天ぷらの日 グリーンハイムジンギスカン	赤飯 天ぷら(えび・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ等 ジンギスカン
7 月	グリーンハイム天ぷらバイキング 和幸園ジンギスカン 和幸園デイサービス誕生会	てんぷら ジンギスカン ちらし寿司
8 月	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム甘味処 生活介護事業所グリーンハイム焼き肉	赤飯 かき氷 焼き肉
9 月	敬老の日 生活介護事業所グリーンハイム焼き肉 生活介護事業所グリーンハイム・和幸園 ハピネス祭 和幸園デイサービス誕生会	赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い物 焼き肉 ハンバーガー、ポテト等 ちらし寿司
10 月	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム蕎麦の日 和幸園 秋の味覚祭	赤飯 蕎麦を楽しむ 栗ご飯、チャンチャン焼き、じゃがバター
11 月	グリーンハイム・和幸園寿司の日 和幸園味覚祭 和幸園デイサービス誕生会	握り寿司(マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、いくら、エビ、ホタテ等) 栗ごはん、石狩汁 ちらし寿司
12 月	グリーンハイム・和幸園クリスマス会 大晦日(31 日) 和幸園デイサービス鍋の日	オードブル・ケーキ等 納豆餅 年越しそば、黒豆等 寄せ鍋
1 月	元旦(1 日)、三が日、七草(7 日) 鏡開き、もちつき 生活介護事業所グリーンハイム鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	おせち料理、雑煮、お寿司等、七草(七草粥) お汁粉 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
2 月	節分 生活介護事業所グリーンハイム・和幸園鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	太巻き、いなり 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
3 月	ひなまつり(3 日)、お彼岸 生活介護事業所グリーンハイム・和幸園鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	ちらし寿司、すまし汁(アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチゴ饅頭、手作りおはぎ 寄せ鍋・すき焼き ちらし寿司

訓練部門

【グリーンハイム機能訓練】

1. 事業報告総括

- ・ご利用者、ご家族のニーズを汲み取った内容のリハビリテーション実施計画書に基づいて、個別訓練や機械器具を用いた自主訓練等を行いました。また、日々の業務やご利用者の経過記録の整備を適正に行いました。
- ・ご利用者の生活状況等を把握したうえで、継続可能な生活リハビリ、介助方法を介護職員等と検討し、助言と提案を行いました。
- ・ご利用者が補装具（車いす・装具等）を使用し、安全・安心な生活を維持し、有意義な時間を過ごせるように支援するため、補装具カンファレンスの定期的もしくは随時開催し、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を行いました。
- ・ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・自助具等）の提案やご利用者、介護職員に負担の少ない介護方法や介護用品（スライディングシート・ボード、グローブ等）を提案しました。
- ・他ご利用者との関わりを持つ機会や集団の中での役割を持つ機会となる集団訓練を行い、リハビリテーションの効果の他に、社会性を保持することも視野に入れた支援を実践しました。また、ご利用者個々のニーズによっては、和幸園所属の理学療法士に相談し、訓練を行いました。
- ・ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（脳ゲーム・脳トレパズル・折り紙作品・塗り絵・貼り絵等）を提案し、ご本人の希望に合わせて展示等を行いました。

2. 訓練業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別訓練	129	124	116	134	90	98	125	126	123	82	118	131	1,396
集団訓練	12	21	8	11	9	14	16	23	18	3	6	32	173
参加延べ人数	141	145	124	145	99	112	141	149	141	85	124	163	1,569
リハ日数	20	19	19	20	17	16	20	19	20	16	18	20	224
1日平均延べ人数	7.05	7.63	6.53	7.25	5.82	7.00	7.05	7.84	7.05	5.31	6.89	8.15	7.00

【和幸園機能訓練】

1. 事業報告総括

- ・個別機能訓練加算の適正な算定のため、個別機能訓練計画書及び実施表作成、実施状況確認等の記録整備を継続しました。また、科学的介護推進体制加算算定のため、LIFEの入力を継続しました。
- ・通常の個別機能訓練の他、必要に応じて、身体機能や残存機能の向上に繋がる個別訓練を行いました。また、ユニット単位の集団レクリエーションの継続や楽しみのある生活と活動性を高めるための工夫を凝らしたレクリエーション、リハビリテーションに取り組みました。
- ・各ユニット外出レクへの参加や訓練室主催の買い物ツアー等、外出する機会の提供に取り組みました。
- ・趣味活動を提供する場としてクラブ活動（書道・創作・麻雀）の企画、運営に取り組みました。
- ・自立支援介護の推進を図るための離床時間拡大に伴い、安全・安楽なシーティングの検討を行い、座・背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッション選定、シーティング調整を実施しました。

- ・ご利用者、介護職員の双方にとって安全な介護の実践のために、移乗介助方法の助言や指導、必要に応じてスライディングシートやポジショニンググローブ等の福祉用具の選定、使用方法の助言や指導、靴の選定を行いました。また、介護負担軽減のための介護ロボット（移乗介助機器等）の活用を推進しました。
- ・褥瘡予防、褥瘡の悪化防止として、臥床時のマットレスや座クッション、ポジショニングピローの選択と検討を行うとともに、介護職員へポジショニングや体位変換、動作の助言や指導を行いました。
- ・摂食、嚥下困難者に対し、嚥下状態を確認したうえで、食形態や座位姿勢、食器や自助具、食具の選定を行うとともに口腔マッサージや嚥下体操、口腔体操の指導と確認を行いました。
- ・施設内研修では、「職員の腰痛予防」、介護職員の新人研修では、「移乗」を担当し、専門職として施設の職員育成に取り組みました。
- ・ショートステイでは、個別ケアの一環として、ご利用者やご家族、ケアマネジャーとの連携を図り、在宅生活を継続できるよう助言や指導を行いました。
- ・ユニット職員の要請により、ケアサポートとして移乗介助や食事、排泄介助や歩行等のフォローを行いました。

2. 訓練業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別訓練	施設入居	86	85	85	92	56	48	61	61	56	39	64	73	806
	ショートステイ	29	29	24	30	13	20	33	20	21	15	23	17	274
集団訓練	施設入居	151	135	121	127	113	99	78	127	100	0	131	106	1,288
	ショートステイ	16	27	11	14	0	0	2	0	1	0	1	1	73
リハ日数		21	21	20	21	18.5	17	21	20	19	19	19	23	239.5
1日平均人数		13.43	13.14	12.05	12.52	9.84	9.82	8.29	10.40	9.37	2.84	11.53	8.57	10.19

通 所 事 業 部 各 事 業 所 の 事 業 報 告

和幸園デイサービスセンター ～ since 1993 ～

1. 事業報告総括

2024年度は、ご利用者により充実した時間を過ごしていただくため、各種行事やレク活動等の幅を広げることに取り組む1年となりました。毎月の行事には多くの方が参加され、外出行事ではいつもと異なる雰囲気の中で楽しい時間を過ごしていただきました。日中のデイサービス活動では、ご利用者の持つ能力の維持と向上を目指したプログラムを実施しました。

経営面では、毎月一定数の利用相談をいただき、平均して月に4件程度の新規利用者を受け入れることができました。年間では、新規利用者52名、利用終了者43名となり、平均利用実績は30.20名と実績目標を上回る結果となりました。

また、札幌市の実地での運営指導が8年ぶり実施されましたが、軽微な助言・指導はあったものの、「健全な運営がなされている」との評価をいただくことができました。

今後も、ご利用者はもちろん、ご家族や関係機関のニーズにしっかりと応えられるよう、専門性の向上に努め、安全・安心で笑顔あふれる事業所運営に取り組んでいきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2025年3月31日現在

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士 併設事業所管理者兼務
生活相談員	3	1	2	0	0	介護福祉士 3 名 介護職員兼務 2 名
介護職員	15	7	2	6	0	常勤 9 名 非常勤 6 名：介護福祉士 10 名
看護職員	5	0	0	0	5	機能訓練指導員兼務 5 名
機能訓練指導員	6	1	0	0	5	柔道整復師 1 名 看護職員兼務 5 名

(2) 職員研修実施状況

事業所内定期研修

基本ケア、自立支援介護について、全体会議内において実施

(3) ご利用者状況（基準：2025年3月利用者）

① 利用登録者状況

2024. 3. 31	2024. 4. 1～2025. 3. 31		2025. 3. 31
登録者	新規登録者	廃止者	登録者
106	52	43	115

② 年齢別状況

～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	
								2024 年度	2023 年度
1	3	5	13	16	38	31	8	115	98

③ 要介護状態区分状況

	要支援 1	要支援 2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
2024 年度	15	20	37	27	10	3	3	115
2023 年度	9	15	34	27	8	1	4	98

④ 廃止理由状況

	2024 年度	2023 年度
死 亡	4	8
入所・入居	19	11
入 院	5	5
引越し	1	2
その他	14	6
計	43	32

⑤ 月別利用者状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	2023 年
実利用者数	89	87	89	93	95	92	97	95	97	87	85	96	1,102	1,041
延利用者数	720	768	736	822	825	774	872	820	744	716	681	798	9,276	8,629
要支援 1	36	39	33	38	44	38	52	42	44	42	39	52	499	382
要支援 2	100	89	80	100	101	88	123	150	134	123	125	112	1,325	1,104
要介護 1	250	307	318	339	330	323	339	270	254	235	220	267	3,452	3,349
要介護 2	199	194	199	226	227	222	225	223	192	189	192	245	2,533	2,206
要介護 3	75	78	75	87	90	77	87	90	93	101	82	99	1,034	1,062
要介護 4	13	13	13	12	11	7	27	26	8	5	1	0	136	203
要介護 5	47	48	18	20	22	19	19	19	19	21	22	23	297	323
開所日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	24	26	309	310
平均利用者数	27.69	28.44	29.44	30.44	30.56	30.96	32.30	31.54	29.76	29.83	28.38	30.69	30.02	27.84

(4) 苦情受付件数

	件 数
介護に関すること	0
職員に関すること	0
その他	0
計	0

(5) 事故報告件数

	件 数	うち医療機関受診	2023 年度
転 倒	12	2	16
介護上の事故	1	0	1
異 食	0	0	0
誤 薬	2	0	0
その他	4	0	1
ヒヤリハット	2	0	2
計	21	2	20

(6) 行事及び活動実施状況

日 程	行事及び活動内容	日 程	行事及び活動内容
4 月 9 日～11 日 (3 日間)	スイーツレク	10 月 15 日～19 日 (5 日間)	紅葉ツアー
5 月 21 日～24 日 (4 日間)	滝野ドライブツアー	11 月 8・13・21 日 (3 日間)	お寿司ランチ
6 月 18 日～21 日 (4 日間)	サケ科学館	12 月 21・24・25 日 (3 日間)	クリスマス会
7 月 15 日～20 日 (6 日間)	中庭レク	1 月 7 日～9 日 (3 日間)	新春福引大会
8 月 ～ 10 月	ドライブレク	2 月 1 日～2 月 7 日 (6 日間)	節分 (年男、年女記念撮影含む)
8 月 15 日～17 日 (3 日間)	夏祭り	3 月 17 日～3 月 20 日 (4 日間)	年度末ゲーム大会
9 月 13 日 (1 日間)	敬老会	4 月 ～ 3 月	ご利用者合同誕生日会 (毎月)

(7) 地域貢献活動

石山地区清掃活動(春・秋 年2回)

和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森 ～ since 2007 ～

1. 事業報告総括

今年度は、感染防止対策を継続しつつ、各種行事を実施することができました。特にドライブレク等の外出活動では、ご利用者が普段とは違う表情で笑顔を見せる場面が多く、外出の大切さを改めて実感しました。また、敷地内の草花や家庭菜園作業、軽作業を通じて、ご自身の役割を感じていただけるよう工夫しました。送迎時にはご家族の様子にも目を配り、職員間での情報共有や担当ケアマネへの連携も行いました。

経営面では、年間利用実績9.5名を目標に運営に取り組みましたが、利用実績は7.64名と目標を下回る結果となりました。利用者登録状況としては、法人内居宅介護支援事業所から5名、法人外居宅介護支援事業所から10名の15名に利用を開始していただきましたが、利用廃止者が17名と新規利用者数を上回ったことやご利用者一人当たりの利用延べ日数が減少していることが要因となりました。一方で、年間相談件数は25件（うち法人外居宅介護支援事業所19件）と増加傾向にあり、当事業所の認知症ケアへの信頼と評価が高まっていることを実感しています。事業所の強みや特色を分かりやすく発信し、安心感のある環境づくりに努めるとともに、個々のニーズに沿った専門性の高いケアを提案することで、「選ばれる事業所」を目指していきます。

今後もご利用者やご家族の気持ちに寄り添いながら、専門性の高い認知症ケアを実践し、地域に暮らす認知症の方々がその人らしく暮らしていけるように、心を込めたケアを実践していきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2025年3月31日現在

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	介護福祉士 生活相談員兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	介護福祉士 3 名 管理者兼務 1 名、介護職員兼務 2 名
介護職員	11	0	2	9	0	常勤 2 名、非常勤 9 名：介護福祉士 7 名
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務 3 名
機能訓練指導員	3	0	0	0	3	看護職員兼務 3 名

(2) 職員研修実施状況

法人研修参加及び認知症ケア・介護技術の事業所内研修を実施

(3) ご利用者状況（基準：2025年3月利用者）

① 利用登録者状況

	2024. 3. 31	2024. 4. 1～2025. 3. 31		2025. 3. 31
	登録者	新規登録者	廃止者	登録者
男 性	3	1	3	1
女 性	23	14	14	23
計	26	15	17	24

② 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計		平均年齢	
									2024年度	2023年度	2024年度	2023年度
男 性	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	90.0	82.3
女 性	0	1	1	4	2	6	8	1	23	23	85.5	85.9
計	0	1	1	4	2	6	9	1	24	26	85.7	84.1

③ 要介護状態区分状況

	介護度						計
	支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
2024 年度	0	8	9	3	4	0	24
2023 年度	0	9	9	5	3	0	26

④ 認知機能状況

	記憶障害				失見当識			
	重 度	中 度	軽 度	計	重 度	中 度	軽 度	計
男 性	0	1	0	1	0	0	1	1
女 性	10	5	8	23	6	7	10	23
計	10	6	8	24	6	7	11	24

⑤ 廃止理由状況

	男 性	女 性	2024 年度	2023 年度
死 亡	0	0	0	0
長期欠席	0	1	1	0
入院・入居	3	12	15	13
その他	0	1	1	1
計	3	14	17	14

⑥ 月別利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2023年度
実利用者数	26	27	28	29	26	27	28	27	23	20	20	21	302	322
延利用者数	235	237	223	254	228	215	222	187	169	115	119	156	2,360	2,877
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	75	71	59	78	78	65	76	75	64	53	52	59	805	787
要介護 2	71	83	79	81	74	82	77	60	66	51	53	53	830	908
要介護 3	63	56	71	78	64	57	57	46	39	11	13	25	580	683
要介護 4	26	27	14	17	12	11	12	6	0	0	1	19	145	305
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194
開所日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	24	26	309	310
平均利用者数	9.04	8.78	8.92	9.41	8.44	8.60	8.22	7.19	6.76	4.79	4.96	6.00	7.64	9.28

(4) 苦情受付件数

	件 数
介護に関すること	0
職員に関すること	0
その他	0
計	0

(5) 事故報告件数

	件 数	うち医療機関受診	2023 年度
転 倒	0	0	0
介護上の事故	0	0	0
異 食	0	0	0
誤 薬	0	0	0
その他	1	0	3
ヒヤリハット	2	0	0
計	3	0	3

(6) 行事及び活動実施状況

	行 事
4 月	音楽療法
5 月	端午の節句・のえるの森誕生会～祝 17 歳～・苗植え・音楽療法
6 月	音楽療法
7 月	音楽療法・避難訓練
8 月	夏祭り・音楽療法・畑収穫
9 月	敬老会・音楽療法
10 月	外出会・音楽療法・避難訓練
11 月	音楽療法
12 月	クリスマス会・音楽療法
1 月	初笑い・音楽療法
2 月	節分・音楽療法
3 月	ひな祭り・音楽療法・避難訓練

(7) 地域貢献活動

町内会への広報誌配布（介護・福祉事業所の周知、認知症ケア等の啓発活動）

和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森 ～ since 2018 ～

1. 事業報告総括

2024年度は、外出行事やレク活動をより充実させ、ご利用者の満足度を高めることに努める1年となりました。ご利用者が楽しみながらリハビリに取り組み、身体機能の向上が図れているのは、1年を通じて質の高いサービスを継続して提供できた成果と考えます。

経営面では、年間利用実績が14.51名となり、前年度から0.56名増加し、予算目標を達成しました。登録者数は、新規利用者が28名、入院や施設入居、長時間型デイサービスへの移行等による利用終了者が21名となり、年度末時点の登録者数は76名と増加しました。地域包括支援センターをはじめ、外部の居宅介護支援事業所からの新規紹介が増加し、前年度よりも登録者数、利用実績ともに増加する結果となりました。

今後も、ご利用者が楽しく過ごしながら身体機能の向上を目指せるような質の高いサービス提供に努め、「ここに来てよかった」「元気になって帰れた」と思っただけの、魅力ある事業所づくりを進めていきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2025年3月31日現在

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員、併設事業所センター長・管理者兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	介護福祉士 3 名 介護職員兼務 3 名
介護職員	9	0	3	6	0	常勤 3 名、非常勤 6 名：介護福祉士 5 名 生活相談員兼務 3 名
機能訓練指導員	1	1	0	0	0	理学療法士

(2) 職員研修実施状況（事業所内）

	研修名
5月20日	高齢者の睡眠について
7月22日	身体拘束、虐待防止について
10月21日	感染症対策について
2月17日	高齢者の運動について、アロマセラピーについて
3月17日	BCPについて

(3) ご利用者状況(基準: 2025年3月利用者)

① 利用登録者状況

	2024. 3. 31	2024. 4. 1～2025. 3. 31		2025. 3. 31
	登録者	新規登録者	廃止者	登録者
男 性	32	13	12	33
女 性	35	16	8	43
計	67	29	20	76

② 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	平均年齢
男 性	0	1	4	6	8	8	4	2	33	82.6
女 性	0	0	8	7	10	9	8	1	43	82.4
計	0	1	12	13	18	17	12	3	76	82.6

③ 要介護状態区分状況

	要支援 1	要支援 2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
男 性	10	7	11	3	1	1	0	33
女 性	21	11	7	4	0	0	0	43
計	31	18	18	7	1	1	0	76

④ 廃止理由状況

	2024 年度	2023 年度
死 亡	0	0
長期欠席・体調不良	15	6
入院・入居	0	5
その他（他デイ等）	5	7
計	20	18

⑤ 月別利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	2023 年
実利用者数	58	55	62	64	65	71	71	69	68	71	69	70	793	734
延利用者数	297	285	293	325	288	310	347	309	307	283	294	317	3,655	3,502
要支援 1	88	87	82	93	74	91	110	95	100	87	91	107	1,105	980
要支援 2	97	92	91	93	83	87	86	81	93	93	95	98	1,089	892
要介護 1	64	59	73	86	82	82	93	80	69	65	67	68	888	957
要介護 2	30	31	31	35	31	37	38	36	33	26	32	31	391	341
要介護 3	9	8	8	9	9	10	12	8	4	4	4	4	89	223
要介護 4	9	8	8	9	9	3	8	9	8	8	5	9	93	109
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
開所日数	22	22	20	23	19	21	23	21	20	20	20	22	253	251
平均利用者数	13.50	12.95	14.65	14.13	15.16	14.76	15.09	14.71	15.35	14.15	14.70	14.41	14.45	13.95

(4) 苦情受付件数

	件 数
介護に関すること	0
職員に関すること	0
その他	0
計	0

(5) 事故報告件数

	件 数	うち医療機関受診	2023 年度
転 倒	5	0	2
介護上の事故	2	0	5
送迎関連	5	0	1
その他	0	0	0
ヒヤリハット	0	0	1
計	12	0	9

(6) 地域貢献活動

「いしやま朝市バス」の運行支援

生活介護支援事業所グリーンハイム ～ since 1996 ～

1. 事業報告総括

今年度は、5年ぶりに外出行事や屋外での昼食会などのレクリエーション活動を再開し、行事も滞りなく実施できたことで、充実した一年となりました。新型コロナウイルスの感染者は一部発生しましたが、感染拡大を防ぎ、事業所の運営を継続することができました。ご利用者・ご家族のご協力、そして職員の献身的なケアに深く感謝します。

経営状況としては、目標であった1日平均利用者数14.0名には届かず、13.18名（前年より0.53名・延べ149名減）と実績が低下しました。一方で、障がい支援区分5・6の方の利用割合が66%を超え、職員配置を充実させたことで新基準の「人員配置体制加算Ⅰ」の算定を開始するとともに、「重度支援加算Ⅱ・Ⅲ」や「常勤看護職員等配置加算」の算定を開始することができました。今後も、身体に障がいをお持ちの方への支援を継続し、重度ご利用者の受け入れと安定した経営の両立を目指して、日々の経営管理に努めていきます。

職員状況については、パート生活支援員1名が退職となりましたが、新たにパート生活支援員4名（介護エイド含む）とパート看護職員1名を採用し、新しい仲間として活躍しています。今後も、職員が安心して働ける環境づくりに努めながら、事業所の安定運営に取り組んでいきます。

2025年度も、区内の相談支援事業所や他事業所との連携をさらに強化し、ショートステイと併用が可能という強みを活かして、より一層の成長を目指していきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2025年3月31日現在

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士 併設事業所管理者兼務
サービス管理責任者	1	1	0	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士
生活支援員（介護）	16	3	0	13	0	常勤 3 名、非常勤 13 名（常勤換算 10.1 名） ：介護福祉士 10 名
看護職員	3	0	0	3	0	非常勤 3 名（常勤換算 1.0 名）

(2) 職員研修実施状況

法人研修参加及び障がい特性等の事業所内研修を毎月実施

(3) ご利用者状況（基準：2025年3月実利用者数）

① 利用登録者状況

	2024. 3. 31	2024. 4. 1 ～ 2025. 3. 31		2025. 3. 31
	登録者数	新規登録者	廃止者	登録者数
男 性	18	4	2	20
女 性	21	2	4	19
計	39	6	6	39

② 年齢別状況

～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計	最年少	最高齢	平均年齢
0	2	6	11	6	4	7	3	39	24 歳	85 歳	54.89

③ 障害支援区分状況

	障害支援区分					計	平均区分
	2	3	4	5	6		
2024 年度	2	6	8	6	17	39	4.76
2023 年度	2	5	10	4	18	39	4.79

④ 廃止理由状況

	2024 年度	2023 年度
死 亡	1	1
入所・入居	1	0
入 院	0	1
引越し	1	0
その他	3	4
計	6	6

⑤ 月別利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	2023 年度
実利用者数	40	40	39	40	40	39	40	41	40	41	41	39	480	499
延利用者数	301	320	315	346	315	288	337	301	303	287	287	318	3,718	3,853
区分2	14	15	14	15	15	14	14	12	13	12	12	15	165	108
区分3	27	45	42	50	45	40	46	38	29	36	32	31	461	464
区分4	73	60	61	63	57	59	62	71	76	57	59	75	773	735
区分5	26	29	27	38	24	25	41	34	31	32	36	40	383	452
区分6	161	171	171	180	174	150	174	146	154	150	148	157	1,936	2,094
開所日数	24	24	24	25	25	22	25	23	23	22	21	24	282	281
平均利用者数	12.54	13.33	13.13	13.84	12.60	13.09	13.48	13.09	13.17	13.05	13.67	13.25	13.18	13.71
重度利用割合	67.11	65.94	67.30	67.05	66.67	66.28	67.66	64.12	65.68	67.60	66.62	66.67	66.65	66.08

(4) 苦情受付件数

	件 数
介護に関すること	0
職員に関すること	0
その他	0
計	0

(5) 事故発生状況

	件 数	うち医療機関受診	2023 年度
転 倒	2	0	0
介護上の事故	0	0	0
異 食	0	0	0
誤 薬	1	0	0
その他	0	0	0
ヒヤリハット	37	0	0
計	40	0	0

(6) 行事及び活動実施状況

	行 事	創作活動
4 月	おやつパーティー5回	折り紙製作教室、鯉のぼり飾り製作
5 月	園芸活動～花、野菜などの植物の苗を植えよう、外出レク	あじさい壁面製作
6 月	外出レク	夏の飾り作り
7 月	外出レク、縁日レク 1 回	七夕飾り製作
8 月	縁日レク 4 回	折り紙製作教室、秋の飾り作り
9 月	バーベキュー（中庭にて） 5 回、園芸活動～野菜を収穫しよう	ハロウィン飾り製作
10 月	焼き芋パーティー 3 回	ハロウィン飾り製作、凧作り
11 月		クリスマス飾り製作
12 月	スカットボール大会 5 回、クリスマス会 1 回	正月飾り製作
1 月	新春ビンゴゲーム大会 5 回、鍋料理の日 2 回	春の飾り作り、節分お面作り
2 月	節分の豆まき、鍋料理の日 3 回、トントン相撲大会 5 回	ひな祭り飾り製作
3 月	ひな祭りおやつレク、モルック大会	桜の木・花制作

【スポーツレク活動】

スカットボール、ボウリング、ホームランゲーム、ペットボトルボウリング、缶コロリングゲーム、射的、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、ペタンク、ペットボトルサッカー、豆まめリレー、お手玉ゲーム、アニマルゲーム、トントン相撲、輪投げ、的あてゲーム、トランプ、外気浴、モルック

【個別活動】

ストレッチ、将棋、オセロ、塗り絵、和紙工作、数学勉強、DVD 視聴、日光浴、館内散歩、歩行訓練（廊下内）、脳トレ（漢字、算数、間違い探し等）

(7) 実習生受入れ状況

鹿光学習センター 介護福祉実務科 通所施設実習 3 名

(8) 地域貢献活動

石山地区清掃活動(春・秋 年 2 回)

地域事業部各事業所の事業報告

和幸園指定居宅介護支援事業所 ～ since 2000 ～

1. 事業報告総括

地域との信頼関係を築くため、職員全員で包括的支援の提供に取り組み、ケースに迅速かつ丁寧に対応した結果、南区内の3つの地域包括支援センターや近隣のサービス付き高齢者住宅、サービス事業所等の関係機関から多くの新規ケース紹介を受けることができました。「困ったときは和幸園居宅へ」というケアマネジャー8名のメッセージが広まり、地域から選ばれる事業所へと成長しています。また、9年ぶりの札幌市からの運営指導においては、「健全な運営がなされている」との評価をいただくことができました。

経営状況として、平均月間支援実績は要介護者数189.5件、要支援者数45.5件となり、合計で235件となりました。年間通して新規相談を1件も断らず受け入れ、総数98件の新規相談を達成し、過去最高の実績を記録しました。ただし、要介護者数の月平均実績については予算目標には達成できず、その達成は次年度に持ち越しとなります。

2025年問題により75歳以上の高齢者が急激に増加する中、地域社会における高齢者支援体制の強化に対応するため、日々の業務や研修を通じて学びを深め、さらなる成長を目指していきます。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2025年3月31日現在

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士、介護福祉士、主任介護支援専門員
主任介護支援専門員	6	5	1	0	0	社会福祉士 3 名、精神保健福祉士 1 名、介護福祉士 4 名 管理者兼務 1 名、併設事業所管理者兼務 1 名
介護支援専門員	2	2	0	0	0	柔道整復師 1 名、社会福祉主事 1 名

(2) 職員研修実施状況

開催日	研 修 名	参 加 者
5月22日	大人の発達障害	ケアマネジャー 1名
5月25日	札幌市介護支援専門員連絡協議会 ICT化について	ケアマネジャー 1名
6月12日	南区在宅ケア連 施設でのお看取りについて	ケアマネジャー 1名
7月25日	札幌市介護支援専門員連絡協議会 南区支部 ヤングケアラーについて	ケアマネジャー 5名
8月2日	エーザイ主催 認知症薬レカネマブの取り組みについて	ケアマネジャー 1名
8月7日	南区第1地域包括支援センター 事例検討会	ケアマネジャー 2名
8月19日	札幌市成年後見推進センター関係者向け研修会	ケアマネジャー 1名
9月9日	合同事例検討会（南区第1包括、SONPO ケア、ニチイケア）	ケアマネジャー 4名
9月11日	口腔衛生管理強化のための研修会「みんなで理解しよう口腔管理」	ケアマネジャー 1名
10月29日	南区 難病研修会 パーキンソン病関連疾患について	ケアマネジャー 1名
11月7日	札幌市介護支援専門員連絡協議会 南区支部 精神科病院の外来入院対応の連携について	ケアマネジャー 1名
11月8日	南区がん緩和医療研究会	ケアマネジャー 2名
11月21日	支える人をひとりにしない ～ケアラー支援推進シンポジウム～	ケアマネジャー 1名
12月13日	主任ケアマネ交流会「ケアラー支援の理解、アセスメント向上について」	ケアマネジャー 2名
1月16日	札幌市南区地域包括支援センター事例検討・好事例発表会のご案内	ケアマネジャー 5名
1月22日	札幌市介護支援専門員連絡協議会 南区支部 適切なケアマネジメントについての基本	ケアマネジャー 3名
2月7日	南区第1包括支援センター主催 高齢者虐待における通報後の流れや介護支援専門員と事業所の対応について	ケアマネジャー 1名
2月14日	専門家から学ぶ成年後見制度・財産管理について	ケアマネジャー 1名
2月19日	難病患者への支援 知っておきたい制度利用のあれこれ	ケアマネジャー 1名
3月13日	合同事例検討会（SONPO ケア、ニチイケア）	ケアマネジャー 4名
3月14日	南区の認知症施策について（南区保健師・包括支援センター・警察）	ケアマネジャー 2名
3月21日	札幌市介護支援専門員連絡協議会 自立支援に資する介護予防ケアマネジメント	ケアマネジャー 1名

(3) 利用者状況

① 居宅介護支援事業所請求実績数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未確定	計	要支援	合 計
4 月	88	46	25	10	10	5	184	40	224
5 月	79	50	24	10	11	11	185	45	230
6 月	79	55	22	9	9	8	182	47	229
7 月	79	57	21	12	8	8	185	47	232
8 月	80	57	25	13	10	3	188	49	237
9 月	81	59	26	11	10	2	189	49	238
10 月	80	58	28	9	7	5	187	48	235
11 月	77	61	25	9	6	8	186	46	232
12 月	84	62	30	7	6	6	195	45	240
1 月	84	57	31	8	7	6	193	44	237
2 月	88	56	30	8	7	11	200	40	240
3 月	91	58	33	7	6	6	201	42	243
計	990	676	320	113	97	79	2,275	542	2,817
前年度	1,043	575	308	140	108	56	2,230	418	2,648

② 新規利用者紹介経緯（給付管理数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	前年度
南区第1包括	2	2	3	2	0	4	0	2	1	2	1	2	21	15
南区第2包括	0	0	0	1	0	2	0	0	0	5	3	1	12	8
南区第3包括	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	3	9	6
病院	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4	8
法人内	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	4	3
利用者家族	0	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	0	5	6
電話相談	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	1	0	7	2
他居宅移管	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5
事業所	1	4	2	1	5	4	0	1	8	3	1	1	31	10
南区役所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
予防センター	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	6
来所相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	8	8	8	8	11	1	8	12	13	9	8	98	72

和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所 ～ since 2012 ～

1. 事業報告総括

介護保険制度、障害者総合支援法が創設され、高齢者も障がいをお持ちの方も地域で安心して暮らすことができる地域福祉の成長が期待されています。しかし、度重なる制度改正により、訪問介護事業の存続自体が危ぶまれる状況にあり、当事業所でも特に人材面で登録ヘルパーの新規採用ゼロという厳しい状況が続いています。そこで、持続可能な経営を目指し、経営規模を縮小し、社会から求められる専門性と価値の高い支援に重点を置いた事業所の運営に取り組んできました。登録ヘルパーの人数は減少していますが、ヘルパー個々の心身の状況や家庭環境に配慮、効率的なサービス調整を行った結果、利用状況に応じて新規受け入れを実施しました。また、全体の稼働時間に対するサービス提供責任者の稼働時間割合を調整しやことにより、オーバーワーク気味になることもありましたが、登録利用者数や平均稼働時間数を増価させ、実績を下げることなく安定した経営を維持しています。

テレッサ mobile の導入により業務効率化が進み、パート事務職員の働き方や業務内容の見直しを行うことで、サービス提供責任者の事務作業の軽減が図れています。緊急対応以外は時間外労働がほとんどなく、子育てしながらも常勤のサービス提供責任者業務が可能であることを実証できたと考えています。

高齢者と障がいをお持ちの方の在宅生活を支援する私たちの仕事に誇りを持ち、現在の支援の先に看取り介護があることを視野に入れ、ご本人が望まれる在宅支援を継続していきます。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2025年3月31日現在

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	サービス提供責任者兼務
サービス提供責任者	3	2	1	0	0	介護福祉士 3 名
登録ヘルパー	12	0	0	12	0	介護福祉士 10 名・ヘルパー2 級 2 名

【 職員体制の変遷 】

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
サービス提供責任者（介護福祉士）	3	3	3
登録ヘルパー	12	14	16
計	15	17	19

【 職員の月平均稼働時間数 】

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
平均稼働時間	40.1 時間	37.7 時間	34.4 時間

【 ご利用者状況 】

	2025 年 3 月	2024 年 3 月	2023 年 3 月
登録者数	88	86	85
新規利用	34	30	27
廃止	28	27	24

(2) 職員研修実施状況

	研 修 名	参加職種
4 月 20 日	ICT 時代に考えたいプライバシーの保護 ハラスメント	ヘルパー 16 名
5 月 18 日	共依存という視点で考える高齢者虐待	ヘルパー 16 名
6 月 22 日	緊急時の対応「見える化」で防ぐ脱水・熱中症対策	ヘルパー 16 名
7 月 20 日	あいまいゾーンを考えてみました 「頼まれたことどこまでやっているの？」	ヘルパー 16 名
8 月 17 日	自分を守る何が必要？何が不要？感染症対策	ヘルパー 16 名
9 月 21 日	訪問介護における身体拘束とは？	ヘルパー 16 名
10 月 19 日	家族への対応どうしてる？在宅生活を続けるための認知症ケア	ヘルパー 16 名
11 月 16 日	調理実習～独居・認知症・要介護 1・女性～	ヘルパー 16 名
12 月 21 日	BCP（業務継続計画）の研修・訓練	ヘルパー 16 名
1 月 18 日	倫理・法令遵守～倫理の“迷い”は現場の事例から考える	ヘルパー 16 名
2 月 22 日	虐待防止 事業所全体で取り組む「接遇力」を高めるためにできること	ヘルパー 15 名
3 月 22 日	感染症予防～ガウンテクニック～ 裁判例から学ぶ介護事故の再発にどう備える？	ヘルパー 15 名

(3) 利用者状況

① 介護保険制度 訪問介護事業 利用者人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
要支援 1	12	15	15	18	17	16	16	16	16	16	15	16	188
要支援 2	15	13	12	13	13	13	12	11	11	10	10	11	144
要介護 1	19	16	16	17	16	17	18	19	20	21	24	23	226
要介護 2	14	14	15	13	13	14	10	12	11	12	12	11	151
要介護 3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	4	45
要介護 4	0	0	1	0	0	0	2	2	1	1	0	1	8
要介護 5	3	4	3	3	4	4	3	4	4	3	3	3	41
計	67	66	66	68	67	68	65	68	66	66	67	69	803

② 障害福祉サービス 利用者人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	65
重度訪問	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36

介護予防センター石山・芸術の森 ～ since 1995 ～

1. 事業報告総括

(1) 総合相談支援業務

・総合相談

年間の延べ相談数が前年度比で8件増加の74件となりました。今後も、身近な相談窓口として認知してもらえるように努めます。

・関係機関とのネットワークの構築

区や地区の連絡会議、南区介護予防センター会議等を通じて、地域の情報や課題を確認し、地域支援に取り組みました。

・地域課題の解決に向けた地域関係者との検討と連携体制の構築

石山地区・芸術の森地区の両地区において、町内会連合会会長をはじめ地域関係者と地区地域ケア会議を行い、課題についての情報共有と解決に向けた検討を行いました。

(2) 介護予防教室の実施及び介護予防普及啓発業務

・介護予防教室の実施

センター主催の転倒予防体操教室を3会場で計100回開催しました。参加人数がコロナ禍後から全体的に増加しており、特に芸術の森会館の参加者が急激に増加しています。

・介護予防教室の運営

介護予防教室への参加者が増加しており、参加定員に達したアクロスプラザ会場は来年度より2グループに分けて運営する予定となっています。また、参加者からの各種相談も増加し、相談窓口としての認知度向上にも寄与しています。

・介護予防活動に取り組む機会の提供

両地区の福祉のまち推進センターの研修会や事業の支援を8回行い、住民だけではなく役員や推進委員の方々にも介護予防活動に取り組む機会の提供ができました。

(3) 地域介護予防活動支援業務

- ・主体的な介護予防活動推進に向けた助言・支援の実施

両地区において、介護予防活動に関わる町内会の取り組みに対し、レクリエーション方法の提供や物品の貸出に加え、体力測定会や交流会の企画・運営に関する助言や支援を、10の町内会に対して行いました。

- ・地域の介護予防における担い手の育成

南区介護予防センター合同で「南区介護予防サポーター養成講座」を実施し、5名が参加しました。参加者には体力測定の方法や体操の実技、認知症サポーター養成講座等を受講していただき、現在は主催教室の運営補助として活動いただいています。

- ・高齢者への活動の場づくりの提案

南区介護予防サポーター養成講座の修了者からの希望を受け、ラジオ体操や手品、レクリエーションを担当していただけるよう主催教室の内容を変更し、活動の場を提供しました。

(4) 専門職と連携した介護予防強化業務

- ・住民が主体となる介護予防活動の立ち上げ支援

前期高齢者の集いの場が不足している現状について、地域からのニーズを把握し、来年度の立ち上げに向けて地域役員と慎重に協議を重ねながら支援を進めています。

- ・既存団体、自主活動化した教室へ支援

昨年度は、専門職と連携した体力測定や口腔・栄養に関する健康講話を実施し、既存団体に加えて自主活動グループ1団体、老人クラブ2団体が新たに加わりました。これにより、参加者の身体機能の維持・向上に繋がりました。

- ・専門職と連携した介護予防センター運営事業の充実と強化

介護予防センター主催の介護予防教室では、リハビリ専門職と連携して体力測定や講話を実施しました。参加者数は、石山会場で2名、アクロスプラザ会場で4名、芸術の森会場で29名増加しました。特に芸術の森会場では春と冬の2回開催し、日頃の体操の成果を確認できる良い機会となりました。今後も専門職の支援を受けながら、介護予防の啓発活動を継続していきます。

(5) その他

石山地区では、石山まちづくりセンターのご協力により、転倒予防体操教室の参加者による作品展示をセンター内掲示板で継続しています。また、「石山地区活動の場一覧表」は、町内会回覧の助言をいただいたことで周知方法が広がり、地域住民への情報提供がより効果的に行えるようになりました。芸術の森地区では、「地区介護予防マップ」の作成を進めており、来年度の配布を目指しています。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
センター長	1	0	1	0	0	社会福祉士/精神保健福祉士/主任介護支援専門員 併設事業所管理者兼務
ケースワーカー	2	2	0	0	0	社会福祉士1名、介護福祉士1名

(2) 年間業務状況

① 相談事業

<相談種別・割合>

	件 数		
	2024 年度	2023 年度	2022 年度
介護保険サービスの利用希望	17	15	19
介護保険制度以外（上記以外）	4	1	1
介護予防	28	26	10
保健福祉サービス	0	1	0
認知症について	4	0	6
心身の健康に関すること	12	10	5
家族の疾病・障がいに関すること	2	2	0
医療に関すること	0	1	0
処遇困難	0	0	1
苦 情	0	1	1
その他	7	9	7
計	74	66	50

② 介護予防普及・啓発事業

<転倒予防体操教室 開催数状況>

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
芸術の森会館	27	23	24
石山会館	24	23	24
アクロスプラザ	49	49	47
計	100	95	95

<転倒予防体操教室 参加延べ人数>

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
芸術の森会館	407	223	151
石山会館	403	323	345
アクロスプラザ	1303	879	581
計	2,133	1,425	1077

相談支援事業所グリーンハイム ～ since 2012 ～

1. 事業報告総括

札幌市障がい者相談支援事業業務（南区）を受託する相談支援事業所として、地域福祉のネットワーク強化のため、南区地域包括支援センターや障がい福祉サービス事業所、民生委員・児童委員を対象とした講演会や研修会を継続しました。また、民生委員・児童委員協議会に対し、相談支援事業所ガイドブックを配布するとともに、定例会で委託相談支援事業所の役割を説明しました。さらに、隔月で区内相談支援事業所と南区保健福祉課職員との事例検討会を開催し、南区としての相談体制の強化と相談支援の質の向上に取り組みました。この活動により、関係機関との連携が強化され、様々なケースへの効果的な対応が可能となりました。加えて、南区・豊平区の相談支援事業所合同交流会を実施し、より広いネットワークづくりを進めています。

今後も丁寧な相談支援を継続していくとともに、地域のケアマネジメントを担う事業所としての運営にも力を入れていきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

（1）利用者視点

- ・ご利用者一人ひとりの価値観、生活様式等に配慮した相談支援を継続しました。その中で、事業所・ご家族とご利用者のニーズが一致しない場合、関係者と協力し、ニーズと支援の一致を図りました。
- ・ご利用者のエンパワメントの視点に重点を置き、ご利用者一人ひとりにどこまでの支援が必要かを検討したうえで支援を行いました。
- ・ご利用者の立場に立ち、ご利用者の意思を尊重したうえで、ケアマネジメントを行いました。
- ・虐待疑いや虐待リスクの高いケースについて、早期に行政と情報共有するとともに、障害福祉サービスの再調整等、関係機関と連携した支援を行いました。
- ・行政、関係機関と連携し、ご利用者の安心・安全の確保に努め、より良い生活環境の構築のためにサービス調整等を行いました。

（2）財務視点

- ・札幌市障がい者相談支援事業業務の受託により、安定した経営を継続することができました。
- ・計画・モニタリング数が前年度よりも減少しましたが、加算を算定することにより昨年度と同水準の収入額となりました。

（3）人材視点

- ・週1回ケースカンファレンスを行い、支援内容の報告、支援の必要性の確認、気持ちの整理等を行うことで、相談支援専門員等のバーンアウト防止に努めました。
- ・相談支援専門員の業務遂行状況に合わせ、定期的な個別面談を行い、各職員が抱えているジレンマ、課題を共有し、課題解決に向けて取り組みました。
- ・積極的に研修に参加し、専門知識の習得に努めました。
- ・他相談支援事業所と連携を図り、定期的な事例検討会や交換研修、情報交換を行いました。

(4) 地域貢献視点

- ・自立支援協議会南区地域部会の後方支援を行い、関係機関とともに南区内の障がい福祉の発展に資する活動を行いました。
- ・地域の関係機関を対象として、障がいの理解を深めていただくための研修会や講演会を行いました。
- ・指定相談支援事業所との定期交流会、SNS（slack 等）を使ったネットワークを継続しています。
- ・他法人相談支援専門員の資質向上のため、インテーク面接等への同行支援を行いました。
- ・相談支援専門員養成研修にファシリテーターとして参加し、相談支援専門員の育成支援を行いました。

(5) ガバナンス視点

- ・コンプライアンス対策として、職員個々と定期的な個別面談、業務状況の確認を行い、契約関係書類、経過記録、計画・モニタリングケースの確認を徹底しました。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2025年3月31日現在

職 種	職員数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士 主任相談支援専門員兼務
主任相談支援専門員	2	1	1	0	0	社会福祉士／介護福祉士 管理者兼務1名
相談支援専門員	1	1	0	0	0	社会福祉士

(2) 職員研修実施状況（外部研修及び合同事例検討会）

	会議・研修名	参加職種
5月24日	チームえだまめ（事例検討会）	相談支援専門員2名
6月10日～12日	ほっと相談センターとの交換研修	相談支援専門員3名
6月21日	難病におけるQOLと最新の医療を考える	相談支援専門員1名
7月5日・12日	フリースクール説明会参加	相談支援専門員1名
7月～9月末	相談支援専門員現任研修 ファシリテーター（3日間）	相談支援専門員2名
7月31日	障害支援区分認定調査員研修	相談支援専門員1名
7月31日	札幌市発達障がい児者地域生活支援モデル事業研修会	相談支援専門員3名
8月1日	「人材育成」と「スキルアップ」研修 令和6年新任職員研修	相談支援専門員1名
8月2日	自閉スペクトラム症のある子どもの人間関係の形成	相談支援専門員2名
8月15日	発達障がい児者地域生活支援モデル事業研修会	相談支援専門員1名
9月9日	サビ管・児発管研修 ファシリテーター研修	相談支援専門員2名
10月12日	札幌TS ネット キックオフセミナー	相談支援専門員2名
10月18日～19日	北海道相談支援専門員交流会研修会	相談支援専門員2名
10月～2月末	相談支援専門員初任者研修 ファシリテーター（7日間）	相談支援専門員2名
10月29日	災害に備えた地域での支えあい研修会	相談支援専門員1名
10月31日	札幌市障がい者虐待対応研修	相談支援専門員2名
11月1日	社会で子どもを育てるソーシャルペダゴジーとは	相談支援専門員2名

11月 8日	札幌市児童発達支援研修会	相談支援専門員2名
11月18日	札幌弁護士会/ワン・オール/おがる	相談支援専門員1名
11月19日	個別支援計画事業者研修会	相談支援専門員1名
11月22日	介護支援専門員研修会	相談支援専門員1名
11月30日	北海道の相談支援を考える	相談支援専門員4名
12月 4日	南区在宅ケア連絡会（防災）	相談支援専門員1名
12月 7日	こども・若者の未来づくり会議	相談支援専門員2名
2月 6日	若者に広がるオーバードーズ	相談支援専門員1名
2月18日	豊平区つきいち会	相談支援専門員2名
4月～3月	事例検討会 全6回	相談支援専門員4名
4月～3月	巡回法律相談会 全9回	相談支援専門員4名

（３）登録者状況（基本相談、計画等相談）

① 登録者数

2024. 3. 31	2024. 4. 1 ～ 2025. 3. 31		2025. 3. 31
登録者数	新規登録者	廃止者	登録者数
401	84	103 (内ケース移管 20)	382

② 障がい別登録者数

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病	その他	計
106	6	141	68	31	2	6	22	382

③ 支援方法内訳

		訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別ケース会議	関係機関	その他	計
件数		939	21	130	1,235	125	95	707	7	3,259

④ 相談支援給付件数（計画、継続支援、地域移行支援）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2024年度	52	47	41	44	40	60	45	33	42	42	35	39	520
2023年度	72	38	62	51	47	98	51	57	55	73	60	56	720

